みやぎ生活協同組合

Sustainability Report 2019

サステナビリティレポート2019



COOP
MIYAGI

Sustainability Report 2019

CONTENTS

01 ご挨拶
02 みやぎ生協とは（コープ東北サンネット事業連合）
03 みやぎ生協は、コープふくしま・福島県南生協と組織合同
04 国際社会の新しいものさしSDGs
05 みやぎ生協の事業・活動とSDGs
06 **東日本大震災を忘れない、風化させない、伝え続ける〈震災復興〉**
07 事業を通じた復興支援
08 古今東北
09 古今東北商品紹介
10 コープ東北保険センター、学校部・㈱宮城県学校用品協会、こーぷ福祉会被災者支援事業への協賛
11 地域社会の一員として、3.11東日本大震災を忘れない

第1章 食品の安全・安心の取り組み

12 商品の安全対策室
13 商品検査センター
14 顔とくらしの見える産直「めぐみ野」
15 「めぐみ野」商品
16 「めぐみ野」の交流・学習・普及

第2章 メンバー（組合員）活動

18 メンバー（組合員）活動
20 食育・子育て支援、こ〜ぷくらしの助け合いの会
21 平和について考える活動

第3章 社会貢献活動

22 くらしと家計の相談室〈ご相談からご融資までをサポート！〉
23 コープフードバンク
24 子育て支援
25 地域で活動する団体への支援
26 自治体・他団体との協力
27 募金活動・災害支援

第4章 事業活動

28 店舗
29 共同購入、サービス事業
30 インターネット事業
31 CO・OP共済、こーぷ福祉会
32 学校部・㈱宮城県学校用品協会
33 コープのでんきCOCOENE（ココエネ）

第5章 環境活動

34 環境理念、環境方針
35 低炭素社会の構築に向けて、再生可能エネルギーの普及拡大
36 廃棄物の削減・再資源化
37 メンバー（組合員）の環境活動
38 商品事業における環境配慮、環境マネジメント
39 環境監査結果報告
40 みやぎ生協の環境活動



みやぎ生協のコンプライアンス

公正な取引

「公正な取引の徹底」は、みやぎ生協の事業活動にとって最も重要であり、お取引先様に対する最大の責務です。私的独占の禁止、公正な取引の確保に関する法律（独占禁止法）の「不公正な取引方法の禁止」及び「優越的地位の乱用」に抵触するような商取引は決して行いません。

外部通報制度

お取引先様とみやぎ生協のホットラインを設け、生協の役職員に何か不適切な問題があった場合に通報して頂く仕組みを持っています。

各種法令の遵守

みやぎ生協が事業活動を行う上で、遵守しなければならない法令は多岐にわたります。2013年より、事業活動に関する法令の改定を把握する仕組みを導入し、適切な対応を行うよう努めています。

お取引先様とのパートナーシップ

毎年6月、「みやぎ生協の方針説明会」を開催しています。これは、お取引先様にみやぎ生協の次年度の方針を理解頂き、より良いパートナーシップを形成していく一助とすることが目的です。

【みやぎ生協・コープふくしまのめざすもの】

わたしたちは、協同の力で、人間らしいくらしを創造し、平和で持続可能な社会を実現します。

本レポートを手に取っていただき、ありがとうございます。

2019年3月、みやぎ生協は福島県の2生協と組織合同し、新たな生協としてスタートしました。県域を越えて3つの生協がひとつになることで事業の共有化と効率化を図り、流通競争が激化する中で宮城県、福島県の皆様に支持され応援していただける組織を目指して参ります。

特に、少子高齢化に歯止めがかからない状況の中、今後は、福島県エリアでの「すくすくばこ」や登録制「ココイククラブ」によるサービスで、子育て世帯への応援の取り組みも予定しており、子育てのしやすい地域づくりにつなげていきます。

さて、2015年9月に国連で採択された「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」をもとに、行政だけでなく様々な企業、団体が2030年を見据えた目標を掲げています。

生活協同組合は、「共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすため」に存在し、「食の安全・安心」「環境配慮」、「地域貢献」など、設立理念の中でSDGsに先立つ活動を続けてきました。

みやぎ生協・コープふくしまとしても、宮城県・福島県で「誰も置き去りにしない」街づくりの担い手として、役割を発揮しなければなりません。子育て世帯をはじめ、高齢者、被災者、そして社会的弱者と呼ばれるあらゆる立場の方々も巻き込んで、持続可能で安心してくらせる地域社会づくりに引き続き努めて参ります。

この『サステナビリティレポート2019』は、2018年度のみやぎ生協の事業・活動とSDGsの17のゴールの関係を、メンバー（組合員）、お取引先企業様、自治体、関係団体などの皆様にわかりやすく伝えるためにまとめたものです。
（組織合同前の活動内容になりますので、宮城県域での活動のみを掲載しています）

東日本大震災以来取り組んできた被災者支援はもちろん、みやぎ生協で積極的に取り組んできた再生可能エネルギーによる発電事業を始めとした環境活動、顔とくらしの見える産直「めぐみ野」、生活相談・貸付事業など、様々な事業・活動を掲載しています。

本書を手に取られた皆様には、今後もみやぎ生協・コープふくしまの活動へのご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



みやぎ生活協同組合　理事長

宮本　弘

協同組合の定義・価値

1995年9月に開催された国際協同組合同盟（ICA）100周年記念大会で採択した21世紀に向けた世界の協同組合の活動指針を示す協同組合原則。

◎定義

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

◎価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。

みやぎ生協とは

生活協同組合とは

協同組合は、メンバー（組合員）の共通の願いやニーズを満たすためのメンバーの助け合い（相互扶助）の組織です。19世紀の半ば、イギリスの労働者が自分たちのくらしを守るために作った「ロッチデール公正先駆者組合」が協同組合の始まり。現在、日本では2,100万人を超える方が生協の組合員です。

民主的な運営

メンバー（組合員）の中から選出された総代による「総代会」で、毎年の方針などが決定されます。日常的には総代会で選出された理事（会）や、その付託を受けた常勤理事会が、総代会の決定に基づき事業を執行します。また、監事が理事（会）の業務執行を監査するなど、生協の民主的な運営を確かなものにするために多様な仕組みを設けています。

1982年に創立

1982年、宮城県学校生協（1952年設立）と宮城県民生協（1970年設立）が合併して現在のみやぎ生協が誕生しました。当時は大型生協同士の合併ということで全国的にも注目されました。



2生協の合併調印式

2018年度決算概要

2018年度の供給高は、競合店の出店などで店舗での供給高不足で前年度は上回りましたが予算を達成できませんでした。結果経営剰余は3.4億円、当期剰余金は1.4億円でした。一方、出資金は前年度末より41.6億円増え、357億34百万円なりました。また、処分剰余金は2.7億円でしたので出資配当を行います。

加入率は全国一

みやぎ生協への加入メンバー（組合員）数は、74万人を超えました。宮城県内の世帯数比で約75%となっています。

メンバー数（組合員）	746,970人
はん数	43,734はん
はんメンバー数	131,138人

（2019年3月20日現在）

主な事業

生鮮食品、食品、日用雑貨、衣料品などの供給事業、サービス事業、受託共済事業、生活相談・家計再生支援貸付事業

店舗51店舗 共同購入11センター コンビニ2店舗

生産部 ミートセンター、フィッシュセンター、豆腐揚げ工場

サービス・保障事業
サービスセンター、住まいのセンター、プリエ案内センター、共済センター

エネルギー事業部（灯油・ガス・電気）

子会社
（株）宮城県学校用品協会、（株）コープトラベル東北、（株）コープ総合サービス、（株）コープエステート、（株）スクラムファイブ、（株）コープストア、（株）東北協同事業開発、（株）コープコンビニエンス

主な加盟団体
日本生活協同組合連合会、宮城県生活協同組合連合会、生活協同組合連合会コープ東北サンネット事業連合

供給高（売上高）
1,033億7百万円
前年比100.1%／店舗702億円、共同購入283億円、サービス15億円、エネルギー28億円、生産部21億円

出資金（資本金）
357億34百万円

職員数
6,835人
レギュラー職員1,067人、エリア職員253人、嘱託職員387人、パートナー職員3,776人、アルバイター職員1,352人
※関連団体への出向者含む

◆みやぎ生協のHPはこちら・・・・・https://www.miyagi.coop/

コープ東北サンネット事業連合

東北6県の生協との連帯

設立から今日まで

1990年6月、いわて生協・生協共立社・みやぎ生協が、今後の事業連帯のあり方について話し合いを開始し、1995年5月、コープ東北サンネット事業連合を設立しました。その後、複数の生協が加盟し、会員数は6県9生協に広がりました。東北6県の生協が連帯することにより、各会員生協の収益改善に大きく貢献しています。

事業活動と取り組み

コープ東北は、東北の生協が商品仕入れを統一化、共同で行うことにより、厳しい競争環境の中でも、それぞれの地域で事業経営力の強化を図ることを主な目的としています。現在、店舗事業、共同購入事業、食品の安全、物流・システムの分野で統一・共同が進んでいます。

◆コープ東北のHPはこちら・・・・・https://www.tohoku.coop/

みやぎ生協は、コープふくしま・福島県南生協と組織合同しました



組織合同の概要

2019年度より、みやぎ生協、コープふくしま、福島県南生協の3生協が組織合同しました。組織合同については2016年から準備を進め、2018年6月に開かれたそれぞれの生協の総代会で議決提案され、承認されました。

組織合同の背景には、少子高齢化と人口減少による環境の変化、競合他社の出店に象徴される小売業界の競争激化の中、2008年に県域を越えた事業が可能になるという生協法の改正があったことが挙げられます。

組織合同による目的は次の4つです。

1. 事業革新とコスト構造改革
2. スケールを生かした事業効率化
3. 福島地区での事業・組織率拡大
4. 人材の確保

「地域のメンバー（組合員）のくらしの向上に貢献し続ける」という使命実現のため、組織合同という形で連携を強めました。

組織合同に至るまでのコープふくしま、福島県南生協の歴史・沿革

コープふくしまは、1932年に組合員56人で設立された「生活協同組合 福島消費組合」と1975年設立の「郡山市民生活協同組合」が1995年に合併し、新生協「コープふくしま」としてスタートしました。日本の伝統的な食品である大豆を、安全安心な地元産で手に入れるために、1998年、生産者・加工業者・消費者が強く連帯する「ふくしま大豆の会」を発足しました。現在は、福島県内に「コープマート」と呼ばれる11店舗、5つの共同購入センターを構えています。

福島県南生協は、終戦直後の1947年、組合員30人で「有限責任白河地区生活協同購買利用組合」として設立しました。

翌年、生協法により「白河地区生活協同組合」と名称変更し、現在は、福島県内に1店舗と1つの共同購入センターを構えています。

国際社会の新しいものさしSDGs

SDGsとは・・・

「Sustainable Development Goals」の略で、「持続可能な開発目標」と訳されます。「2030年までに達成すべき」と設定された国際的な目標で、国内外のあらゆる企業、自治体、団体などでも課題としているものです。持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットから構成され、「地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。生協の事業活動にも親和性が非常に強い目標です。





あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ



飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する



あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する



すべての人に包括的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する



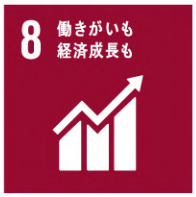
ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメント※1を図る



すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する



すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク※2を推進する



レジリエント※3なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーション※4の拡大を図る



国内および国家間の不平等を是正する



都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする



持続可能な消費と生産のパターンを確保する



気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る



海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する



陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る



持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する



持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



※1 エンパワーメント：ひとりひとりが力をつける　※2 ディーセント・ワーク：働きがいのある人間らしい仕事　※3 レジリエント：回復力に富む、弾力のある　※4 イノベーション：技術革新、新機軸

みやぎ生協の事業・活動とSDGs

みやぎ生協は、「協同の力で、人間らしいくらしを創造し、平和で持続可能な社会を実現する」ことを理念として掲げ、事業・活動をすすめています。この理念は、SDGsの掲げる目標ともつながっています。メンバー（組合員）活動の中でも、SDGsに関する学習会を開くなど、地域社会と一緒に、SDGsの目標達成に貢献したいと考えています。

みやぎ生協の事業・活動がSDGsとつながっていること

エシカル消費



■顔とくらしの見える産直「めぐみ野」
みやぎ生協の産直「めぐみ野」は、「自然と人」「人と人」とがお互いを大切に思いやる気持ちのつながりで結びついています。

■古今東北
「古今東北」は東日本大震災からの復興を「食」を通して支援する取り組みです。東北6県から選りすぐりの食材や加工品をお届けしています。

お買い物支援



■移動店舗「せいきょう便」
2011年から被災した地域で買い物に困っている方への支援のために運行を開始。現在は高齢化が進行した団地や山間地域などへも拡大し運行中です。

■お買いもの代行「ふれあい便」
「ふれあい便」は17店舗から週2回、お店の商品をスタッフがお買い物を代行し、ご自宅までお届けするサービスです。高齢者の見守り活動も担っています。

■夕食宅配
栄養バランスに配慮したお弁当などを、専任スタッフが月曜日から金曜日まで、ご自宅にお届けしています。

くらしのサポート



■ボランティアセンター
震災後、ボランティアセンターを設置し、以来、被災された方々に寄り添う活動を続けています。

■募金活動・災害活動
日本各地の災害被災地への支援として、メンバー（組合員）や職員から募金を集めたり、ボランティアを派遣しています。

■コープくらしの助け合いの会
メンバー（組合員）同士の助け合いの活動として1985年に設立。活動は高齢者だけではなく、障がいや病気の方、また若い子育て家庭も対象に支援が行われています。

■コープフードバンク
お取引先様の食品企業等から剰余食品の無償提供を受け、社会福祉に寄与する団体・組織へ無償で提供しています。食品の無駄をなくすとともに、誰でも安心してくらせる地域づくりを目指しています。

地域社会への貢献



■子育て支援
メンバー（組合員）活動や事業を通して、宮城県の子育てを応援しています。「すくすくぱこ」「ココイククラブ」、「子育てひろば」や「子育てサークル」など、多彩なサービス・活動があります。

■社会福祉法人 こーぷ福祉会
高齢者向けの介護拠点を県内3ヶ所に設置し、様々な介護・看護サービスを提供しています。

■学校部・（株）宮城県学校用品協会
宮城県内の学校への教材販売や家庭学習教材、学習教室事業を担っています。また、学校の先生の福利厚生にもつながる事業も運営しています。

他団体・自治体との協働



■自治体との協定
みやぎ生協は、自治体と包括連携協定、災害時物資供給協定、高齢者見守り協定などの協力関係を結んでいます。

■NPO
宮城県内を中心に子どもの貧困、障がい者・高齢者福祉などに取り組む民間団体を支援するため、助成金制度の整備や店舗設備の貸し出しなどをしています。

■ユニセフ
みやぎ生協本部内に「宮城県ユニセフ協会」の事務局を置き、世界の子どもたちの状況を知らせ、ユニセフを通じた啓蒙活動・支援活動をしています。

環境の取り組み



■再生可能エネルギーの活動
太陽光発電や風力発電、木質バイオマス発電事業のほか、事業用電力を再生可能比率の高い電力に切り替えました。㈱コープでんき東北によるでんき販売事業も開始しました。

■リサイクル活動
各事業所から出る廃棄物やメンバー（組合員）から集めた資源ごみを分別し、リサイクルセンターを通して再資源化しています。

■こ～ぷの森
宮城県内の緑と自然を豊かにするため、メンバー（組合員）と地域の植生にあった広葉樹の苗を植える活動に取り組んでいます。

みやぎ生協は責任ある組織・事業活動を通じて、社会が直面する課題の解決と、SDGsの目標達成に向けて貢献します。

貢献するSDGs

東日本大震災を忘れない、風化させない、伝え続ける。

〈震災復興〉

東日本大震災から8年が経過しました。まだ被災者のくらしの復興は道半ばです。メンバー（組合員）のくらしと地域の復興に生協の役割を発揮し、「協同」のある地域づくりをすすめます。



被災された方々を支えるボランティアセンター

みやぎ生協では2011年5月から被災された方々に寄り添う活動に取り組んでいます。これまでの活動は4,100回を超えました。これからも被災地の生協として、最後の最後まで被災者に寄り添い、全国の被災地を含めた支援を続けていきます。

ふれあい喫茶（サロン活動）

住民の転居に伴い仮設住宅での開催は2018年12月で終了しましたが、災害公営住宅の集会所・店舗などで活動を続けています。県内9ヶ所（2019年3月現在）で、一緒にお茶とおしゃべりを楽しむ活動に取り組み、コミュニティづくりにつなげています。



気仙沼市内災害公営住宅でのふれあい喫茶の様子

被災地訪問

宮城の被災地訪問を16回実施し、568人が参加しました。当時の様子や現状を知り、支援継続の必要性や震災を伝えること、災害への備えを確認する機会となりました。また、福島の沿岸部や産地の視察を3回実施し、104人が参加しました。視察の様子を「3.11を忘れない取り組み」などで報告しました。



福島視察では、産直ぶどう生産者と交流してお話を伺いました。

とうほくてしごとカタログ FUCCOの発行

生きがいやコミュニティづくり、生活再建のため手作り品を製作する方々を紹介し、購入を呼びかけるカタログ「とうほくてしごとカタログFUCCO(フッコ)」を、NPO法人応援のしっぽと協同で、今年度2回発行しました。委託販売の仕組みを導入し、販売機会を広げました。



とうほくてしごとカタログFUCCO Vol.4

「夜の森のさくら」植樹

コープふくしまの呼びかけに応え、帰還困難区域である福島県富岡町の「夜の森さくらプロジェクト」の桜の苗木を、みやぎ生協文化会館ウィズに植樹しました。



植樹式の様子

事業を通じた復興支援

店舗や共同購入、サービス事業など、幅広い事業に取り組んでいるみやぎ生協だからこそ、事業を通した復興支援が可能です。被災者支援として始まった事業も、震災から時が経つにつれ、徐々に地域福祉の向上や地域活性化につながる形へと発展してきています。

店舗事業での支援

●移動店舗せいきょう便エリア拡大

2011年8月から仮設住宅対応として移動店舗を始めました。現在は、災害公営住宅や一般住宅の近くでの販売も行っています。みやぎ生協では、普段の買い物に困っている「買い物困難者」は今後も増えていくと考えており、買い物のお役立ちと、更にご近所同士が集まることによる地域活性についても「生協便」を通じて取り組みを広げていきます。

■現在、大型車4台・小型車3台、全40コースで営業しています。

蛇田店：石巻市・東松島・南三陸町（志津川）・女川町
加賀野店：栗原市・登米市・気仙沼市・南三陸町（歌津）
大河原店：名取市・大河原町・村田町・柴田町・川崎町・白石市
明石台店：仙台市泉区・富谷市



小型車での営業

●買い物代行サービス

「こ～ぷふれあい便」は週２回、店舗の商品を自宅までお届けする買い物代行サービスです。高齢者や身体の不自由な方などを対象としています。震災後は被災地域の買い物に困っているメンバー（組合員）への対応も行っています。

また、高齢者の「安否確認」で県内各市町村との協定に基づき、「高齢者見守り」も行っています。「こ～ぷふれあい便」の対象店舗は、17店舗になっています。

「ふれあい便」サービス実施店舗

西多賀店、黒松店、桜ヶ丘店、富沢店、幸町店、国見ヶ丘店、柳生店、明石台店、旦理店、塩釜杉の入店、高森店、愛子店、名取西店、八木山店、蛇田店、鶴ヶ谷店、荒井店
※配達エリアはお店によって異なります。

◆「ふれあい便」の配達エリアに関する詳細はこちらからご覧になれます。
https://www.miyagi.coop/support/fureaibin/

共同購入での支援

●がんばろうふくしま！農産品応援ボックス

2011年6月からスタートした「がんばろう ふくしま！農産品応援ボックス」「果物応援ボックス」は、2018年度までの8年間累計で30万点の利用を頂きました。また産地から「組合員さんへ感謝の気持ちを形にしたい」との提案で7月1週に500円（通常価格650円）の感謝価格でご案内し、1週間で3,321点（通常週の5倍）と大きな利用がありました。9年目を迎えるにあたり、ボックスへの品目数やセット内容を変更していくなど、新たな取り組みを産地側と協議しながら今後も継続して取り組んでいきます。



農産品応援ボックス

●復興支援サービス

東日本大震災で被災した方々を対象に、個人宅配の基本手数料を通常240円（本体）のところ96円（本体）で利用できる仕組みとした『復興支援サービス』は2018年度も、2,688人の新たな申し込みを受け付け、16,151人にご利用いただいています。復興支援サービスの値引き終了期間を『復興が実現するまで』とした基本手数料値引きサービスの期間延長を多くのメンバー（組合員）に喜んで頂いています。今後も地域にお役立ちできる支援を続け、協同組合としての役割を一層発揮していきます。

地域産業・生産者への復興支援【古今東北】

東北の産地全体が活性化していくためには、継続的な支援が必要であり、そのためには産地の販路拡大は不可欠です。古今東北は東北各地のおいしい商品を全国の皆さんに紹介し、産地の販路拡大に貢献します。商品そのものが支持され、全国の皆さんに、「この商品が欲しい」と言われるような商品を提供し続けます。

古今東北ブランド

東北の生協として、震災復興そして地域振興の役割を果たすために立ち上げた、東北の食の「これまで」と「これから」を紹介するブランドです。古今東北がお届けするのは、東北六県のあちらこちらから集めた選りすぐりの食材や加工品です。地元で愛されてきた伝統的な食文化を再発見し、多彩な食文化が出会うことで生まれる新たな食の楽しみを提案します。東北地方の魅力を日本全国に向けて、いずれは世界の国々にむけて発信していきます。ロゴマークは、安全・安心で優れた商品であることを保証する「太鼓判」をモチーフにしました。

古今東北
COCON TOHOKU



南相馬・紅梅夢ファームのみなさん



アエル催事販売

（株）東北協同事業開発

みやぎ生協の子会社として、「食のみやぎ復興ネットワーク」の思いと事業を継承し、東北の産業振興と地場産品の販路拡大のために2015年4月に設立しました。東北地方の資源を活用した古今東北ブランド商品の開発と全国への発信を通じて、豊かな地域作りと継続的な被災地振興へ繋げます。2015年11月に38アイテムでスタートした古今東北商品ですが、2019年度末までには約230アイテムを目指します。



コープデリでの組合員学習会

他社・他生協での販売拡大

2018年度は、全国の生協の取り扱いも10生協以上に取り扱いが拡大し、定期企画も増えました。冷凍商品の取り扱いも可能になりました。仙台市場場外「杜の市場」での取り扱いも始まりました。東北のスーパーやホテル、気仙沼の「海の市」、楽天市場でのインターネット販売なども好評です。



カルビー菓子直営店での取り扱い

【古今東北】の商品紹介

地域産業・生産者支援ブランド「古今東北」は、現在約170アイテムになり、売り上げは初年度の6億円から3年目の2018年度には12億円になりました。東北の震災復興と地域振興に賛同する人々の思い、そして時を越えて親しまれる美味しさを伝えていきます。「食のみやぎ復興ネットワーク」の取り組みから生まれた商品、被災した産地の復興を応援する商品です。東北産食材のおいしさを発信する商品の開発と販売を通じ、東北地方を応援しています。

秋田県産白首大根使用 パリコリいぶりがっこ





秋田県に古くから伝わる漬物として広く認知されている「いぶりがっこ」は大根を囲炉裏の上に吊るしていぶし、米ぬかで漬け込んだ雪国秋田の伝統漬物。全国に名高く、東北を代表する漬物です。

ぷり旨 味付け玉こんにゃく





山形県は一人当たりのこんにゃく消費量が日本一ですが、その原料は他県産に頼っているのが現状です。「自分たちの商品は自分たちの原料で作りたい」そんな想いから地元のこんにゃく芋で作った、歯応えがあってうまみのしみ込んだ「玉こんにゃく」です。

宮城学院コラボ商品

宮城県白石産竹鶏たまご使用 しっとりバターかすていら





東北の素材を活かし、風味づけに国産バターを加えて濃厚な味わいにしました。熟練の職人が手作りで焼き上げました。宮城県産竹鶏たまごと青森県産小麦粉を使った、しっとりとした食感が楽しめるカステラです。

宮城学院コラボ商品

ふわっと香るゆずポン酢





東日本大震災の被災地である気仙沼大島産のゆず果汁を使用し、特選丸大豆醤油、三陸産昆布、鰹節だしを加えた香り高いポン酢に仕上がりました。

宮城学院女子大学とのコラボ

宮城学院女子大学現代ビジネス学部から、古今東北ブランドの学習を依頼され、年間10回のゼミを行いました。女子大生から東北の原料を使った商品提案があり、古今東北商品として共同開発を行い、2018年春に発売することができました。



宮城学院女子大・宮原、渡部ゼミのみなさん

コープ東北保険センター

保険証券の「ベルマーク」を集めて被災した学校を支援

コープ東北保険センターの職員が自動車保険・火災保険の契約手続きを行いながら、保険証券についているベルマークを集めて、被災した学校に届けました。今年は登米市立西郷小学校と石巻市立開北小学校にお届けしました。



西郷小学校 児童のみなさん



開北小学校の2人の児童と庄子校長

学校部・㈱宮城県学校用品協会

他県の学校用品会社や学校生協からの図書寄贈

福岡、徳島、福井、群馬、石川、三重、富山各県の教育用品会社や学校生協から、宮城県の学校9校へ図書館図書や学校備品の寄贈支援を頂きました。宮城県学校用品協会が代理として、各学校へお届けし贈呈式を行いました。2011年度からの寄贈累計総額は約850万円相当になっています。



宮城県の学校へ寄贈した図書

こーぷ福祉会

被災者支援の福祉サロン

被災者支援の「福祉サロン」は2018年度11回開催し、ボランティアを含めてのべ約200人、2011年の開始以来では124回、のべ約2,900人が参加しました。また、社会福祉法人協同福祉会（奈良県）、大和郡山ロータリークラブの方々の支援で全国金魚すくい大会石巻予選大会、本選招待企画に協力しました。

被災者を支える協同の輪

「被災者を元気にしたい」「地域を元気にしたい」という思いから、みやぎ生協では地元スポーツチームなどの被災者支援事業に協賛しています。

被災者支援事業への協賛

ベガルタ仙台「復興支援サッカーキャラバン」

みやぎ生協は、ベガルタ仙台が小学校で開催する授業型「サッカーキャラバン」に協賛し、2018年度は40回、のべ3,357人が参加しました。



ベガルタ仙台サッカーキャラバン

みやぎ生協プレゼンツ 仙台89ERS冠試合

2018年11月（ゼビオアリーナ仙台）と2019年3月（カメイアリーナ仙台）でホームゲーム2試合を「キッズドリームDAY」として協賛し、200人以上の子どもたちを招待しました。子どもたちは精一杯声援を送り楽しい一日になりました。



仙台89ERS冠試合

地域社会の一員として

復興支援活動の広告

みやぎ生協とメンバー（組合員）が展開してきた様々な支援活動をお知らせし、今後も支援を続ける意思を表明するために、昨年に引き続き、3月11日の河北新報に全面広告を掲載しました。



Date fm エフエム仙台のサバ・メシ（サバイバル・メシ）企画に協賛

2019年1月13日に「Date fm エフエム仙台 サバ・メシ防災ハンドブック『親子で作るサバ・メシワークショップ』」がみやぎ生協文化会館ウィズで行われ、10組20人の親子が参加しました。災害時の備えについてのレクチャーのあと、3種類のサバ・メシ料理の調理体験をしました。また、みやぎ生協文化会館ウィズ館内の「東日本大震災学習・資料室」の見学や記録映像の視聴などを行い、親子で震災のことや防災・減災について考える機会になりました。



3.11東日本大震災を忘れない

東日本大震災を風化させず、社会インフラとしての役割を果たすために

東日本大震災 学習・資料室

「東日本大震災を忘れない、風化させない、伝え続ける」をテーマに、2013年、みやぎ生協文化会館ウィズ内にオープンしました。2018年までの6年間の入場者数は8,000人に達しました。2016年には、震災当時の写真の掲示を増やし、震災復興のシンボルである古今東北商品の展示品を増やすなど、大きくリニューアルしました。この震災学習資料室は2019年3月震災伝承ネットワーク協議会の「震災伝承施設」第一号に登録されました。



学習・資料室内の様子

東日本大震災を忘れないつどい

被災者・被災地の現状や課題と被災者支援、被災地復興支援の取り組みを継続することを確認するために、毎年3月11日に開催しています。東日本大震災で犠牲（行方不明）になられた生協職員をはじめとする方々を追悼し、これからも震災を忘れず、風化させず、大規模自然災害発生時の生協の役割を継承し続けます。



取り組み報告 宮本理事長

「被災地は今」の情報発信

「くらしと帰郷」「住宅問題」「被災自治体職員の心のケア」「ボランティア」「被災した子どもたちの現状」など、様々な角度から被災地を取材して、被災地では今何が問題なのかを全国の生協に発信しています。震災から8年が経過し、震災に関する報道は目に見えて少なくなっています。被災地の現実を風化させないためにも今後も発信し続けます。

3.11を忘れない取り組み

宮城県内各地のこ〜ぷ委員会で、手作り商品販売やローリングストックの紹介・試食、防災グッズ紹介、語り部のお話や行政出前講座などを通して、震災を忘れない想いを伝える企画に取り組みました。中でもローリングストックの紹介は、普段のくらしの中で災害に備える人を増やすため、町内会や消防事務組合、小学校、消費生活センターなどでの講師活動や、仙台防災未来フォーラムへ2019の出展も行い、多様な方々への普及に取り組みました。



BRANCH仙台店でのローリングストック紹介の様子

貢献するSDGs



第1章 食品の安全・安心の取り組み



食品の安全を確保する仕組み

みやぎ生協は設立当初から、安全でよりよいものを供給していくことを掲げて事業をすすめてきました。「安全・安心」は、いつの時代もメンバー（組合員）が生協にもっとも期待することのひとつであり、「安心して食べたい」という願いを実現することが、生協の事業に共通する大きな柱です。

みやぎ生協 食品の安全・安心に関する基本方針

みやぎ生協は、メンバー（組合員）が安心して商品を利用できる生協づくりを進めます。取引先および生産者と共同し、取り扱う食品の安全管理のレベルを向上させ、食に関するメンバー（組合員）の願いの実現を目指します。そのために、以下の基本方針に基づく取り組みを進めます。

1. 取引先、生産者、メンバー（組合員）とコミュニケーションをはかり、生産・仕入れ・製造・加工・メンバー（組合員）への供給の各過程を通して、食品の安全性を高めます。
   (1) 食品の安全マネジメントシステムで適切な課題・目標を設定して実行し、その進捗状況を検証し、定期的に見直し、継続的な改善ができる仕組みをより確かなものにし、運用します。
   (2) 重大商品事故の兆候を見逃さない仕組みを向上させるとともに、万が一重大商品事故が発生したときの被害を最小にするため、対応方針・手順を明確にし、訓練します。
   (3) 安全な食品をお届けするために必要な職員の力量を高めるために、教育・啓発を計画的に行います。
2. 食品の安全や衛生に関する法令・規制を順守するとともに、必要に応じてそれらに基づく内部ルールを制定し管理を進めます。
3. メンバー（組合員）と産直生産者の交流を活発にし、「顔とくらしの見える産直」活動の輪を広めます。
4. 県内産・国内産食品の取り扱い拡大と食料自給率の向上に寄与する活動を進めます。
5. 食に関する学習・体験の活動にメンバー（組合員）や他団体と協力して取り組み、安心できる食生活の実現に貢献します。この食品の安全に関する基本方針は、生協内外に公表します。

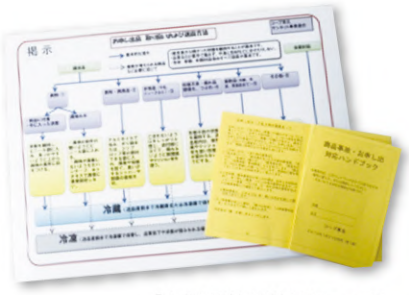
2011年4月22日 みやぎ生活協同組合

商品の安全対策室

重大商品事故の兆候管理システム

重大な事故につながりかねない兆候を見逃していないか、メンバー（組合員）からのお申し出に対する判断や対応に誤りはないか、お申し出となった原因解明と再発防止策はしっかり行われているかなど、最後まで対応状況を監視しています。

2018年度も、お申し出への対応の誤りで、他の重篤な人体被害や被害拡大などに発展した案件はありませんでした。



「お申し出」に関係するマニュアル



●「餃子事件を教訓とする月間」の取り組み

2008年の「手作り餃子農薬混入事件」のときに決意したこと・反省したことを風化させないため、毎年2月度に、事件の内容と教訓、作り上げてきた食品の安全を確保するためのルールを学習・確認しています。

●食品の安全マネジメントシステム

①生協の各部署が、「食品の安全・安心に関する基本方針」に基いた目標と、それを実現するため教育・実施・検証の計画を立て、毎月進捗管理をして改善活動を行っています。

②内部監査や外部検査の結果もふまえ、取り組みの有効性を評価し、目標が達成できない場合には、その原因を明らかにして対策を補強していくことで改善を積み上げています。



理化学検査

●2018年度の改善例

①店舗食品加工の作業環境の衛生レベル向上に取り組み、年度目標レベルを上回りました。

②共同購入では、メンバー（組合員）からのご意見やお申し出を職員が記録する際の不備件数を昨年より削減しました。

③メンバー（組合員）からのご意見やお申し出を受け付けてから、生協が回答を作成するまでの期間を、昨年よりもさらに短縮しました。



食の安全・安心のためのマニュアルなど

商品検査センター

●放射性物質検査

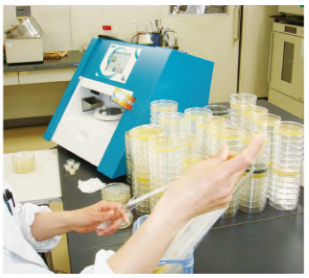
2018年度は301検体の検査を行い、検査結果は全て「検出せず」でした。検査結果は、店頭掲示や共同購入の納品書、ホームページで報告しています。

放射能 摂取量調査の手順

2011年度から日本生協連と協力し実施しています。
2018年度は30世帯のメンバー（組合員）に協力を頂きました。

測定の結果、全世帯ともに検出はありませんでした。

1.各家庭で食事をもう一食余分に作ります。
2.一食分ずつフリージングバッグに入れ冷凍庫に保管します。
3.各家庭から2日分の食事とアンケート、献立調査票、食事の写真が届きます。
4.食事をミキサーで粉砕し均一に混ぜて、そのうち2リットルを検査試料とします。
5.細かくした検体を専用の容器にできるだけ隙間なく詰めます。
6.検体を詰めた容器を検出器にセットします。1検体の測定時間は約14時間です。
7.パソコン上で操作して、モニターに表示されたデータから、物質の種類と濃度を解析します。



微生物検査



放射性物質検査

1）微生物検査

累計	総検体数	共同購入配達商品	店舗調理加工商品	店舗一般メーカー商品（テナント含む）	COOP商品・生産部生産品	取扱事前検査など
検体数	9,400	1,886	2,122	1,803	717	2,872

検査結果は、店舗やメーカーの衛生管理向上のために活用しました。

2）残留農薬検査

累計	総検体数	めぐみ野 野菜	めぐみ野米	一般品
検体数	416	363	26	27

検査結果は、産地の栽培計画や管理向上のために活用しました。

3）原材料の確認

項目	遺伝子組み換え	品種判別	産地判別
検査品目数	4	7	10

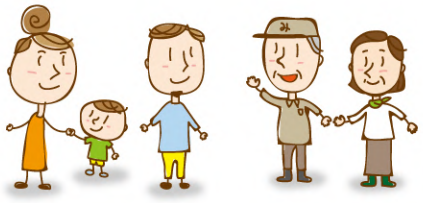
検査結果から、指定した原材料が適切に使用されていることを確認しました。



コープ東北商品検査センター

◆食品の安全に関する詳細はこちらからご覧いただけます。https://www.miyagi.coop/products/safety/

顔とくらしの見える産直「めぐみ野」



今から50年ほど前、メンバー（組合員）のみなさんや生産者の方々と始めた「顔とくらしの見える産直」。
それは、生産者と消費者の食に対する思いを直接結ぶことで、共に幸せを分かち合う「産消直結」への取り組みでした。
そして、さらに未来に向けて新たな一歩を踏み出すために、私たちはこの取り組みから生まれた商品に2011年「めぐみ野」という名前をつけました。ふるさとの豊かな自然が授けてくれる恵み。生産者の方々のたゆまぬ努力によりもたらされる恵み。おいしくて安全な食卓に支えられた健やかな毎日という恵み。そして、作る人と食べる人がお互いを思いやる心の恵み。恵みに満ちたおいしい幸を、どうぞお召し上がりください。

事業と運動の基本的な立場

みやぎ生協の「めぐみ野」の事業と運動は、生産者と消費者の共通の願いを実現するために、次のような基本的な立場で提携活動を進めています。

①健全な日本型食生活の確立と食料の安全性を高めます。
②食料自給率の向上をめざし、宮城県と日本の農・畜・水産業を守り、発展させる国民合意の運動をすすめます。
③産消提携活動に積極的に取り組むことを通じて、宮城県と日本の経済と文化の発展、自然環境の保全に寄与します。

顔とくらしの見える産直 めぐみ野 3つの基準

①だれ（生産者）がどこ（産地）で作ったかがわかること。
②どのように作ったか（栽培・飼育）がわかること。
③生産者とみやぎ生協のメンバー（組合員）の交流があること。

「めぐみ野」生産者の紹介

今朝どりレタス



メンバー（組合員）や仲間と意見を交換し、試行錯誤を重ね、そして東日本大震災の被災から立ち上がり、つくり続ける「今朝どりレタス」は、今年31年目の出荷を迎えました。



取り扱い時期：
5〜6月いっぱい

気温が上がる前、早朝2〜3時ころから収穫し、開店前にお店に届きます。鮮度が良く、柔らかで、玉の大きいレタスです。

志津川湾産 養殖銀さけ



宮城県南三陸町志津川湾は養殖銀さけの発祥の地です。山に囲まれた志津川湾には森の豊かな養分が海に流れこみ、養殖に最適な海域です。震災を乗り越え、20代〜40代の生産者が生産しています。



生での取扱い時期：
5〜7月頃

海を汚しにくいEPペレット（固形飼料）を使用しています。えさの品質に配慮することで持続可能な養殖環境を維持し、均一のおいしさを提供しています。

めぐみ野商品

●数字で見る「めぐみ野」

2018年度供給高…… **66億円**

みやぎ生協と「産消提携に関する基本協定書」を締結している団体（「宮城県産消提携推進協議会」）…… **53団体**

「めぐみ野 旬菜市場」設置店舗…… **45店舗**

●「めぐみ野」新商品

■「めぐみ野」むきほや、「めぐみ野」ほや酢

6～8月の旬の時期に水揚げし、当日剥き身にします。殻付きでは出荷できないサイズのほやも使用することで、資源の有効活用に役立っています。





※むきほやは店舗のみ、ほや酢は共同購入のみの扱い

●「めぐみ野」旬菜市場

生産者が規格と価格を決め、自ら価格ラベルを貼り出荷しています。生産者の自信作がそろったわくわくする、直売所のような売り場です。





旬菜市場

なし



家庭菜園程度の量の出荷から、本格的な栽培のために苗木を植えるところから始めたのは、今から48年前のことです。現在は12戸の生産者が角田市豊室地区・老ケ崎地区の梨団地で生産しています。



取り扱い時期：
8月下旬～10月下旬

その時期に一番おいしい「幸水」「豊水」「あきづき」「新高」の順に出荷されます。樹上でじっくりと熟度を上げてから収穫、出荷します。

いちご



角田市、丸森町、石巻市、東松島市で生産しています。品種は糖度が高くほどよい酸味が特徴の「とちおとめ」です。化学肥料の使用を抑え、土壌分析を行って有機質中心の土づくりを行っています。



取り扱い時期：
11月～5月末頃

早もぎをせず、じっくりと畑で熟度を上げ、ヘタの近くまで赤くなってから収穫します。

「めぐみ野」の交流・学習・普及

みやぎ生協は「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」の取り組みを通じて、自然環境や生物多様性、人を大切にする農業や漁業の維持・発展や食料自給率の向上に取り組んでいます。

「めぐみ野」産地見学・交流会

産地見学・体験会は、61回のべ2,144人が参加しました。メンバー（組合員）と交流・体験の機会を増やしました。「わが家の味噌作り体験」「めぐみ野」田んぼの学校、ねぎの収穫体験・バケツ稲コンテストなど、親子で体験できる企画を実施し、821家族1,164人が参加しました。



田植え体験



志津川かき作業の応援



荒井産直会 今野農場でのじゃがいも収穫体験



JAみやぎ仙南 ねぎ収穫体験

「めぐみ野」学習会・学習塾

「めぐみ野」学習塾を38回開催し、836人が参加しました。こ～ぷのつどいでの「めぐみ野」の学習は22回行い、510人が参加。「めぐみ野」品の特徴など理解と共感が広がりました。



「めぐみ野」学習塾

「めぐみ野」品の普及活動

店舗での普及活動を毎月15日の「いいコープの日」に実施し、毎月第一土曜日には、「めぐみ野」米の普及活動を行いました。秋まつりは、全店舗と7エリアで取り組みました。各エリアでの普及活動は、全部で214回行い2,252人の参加で、メンバー（組合員）にお知らせしました。



「めぐみ野」野菜普及活動



「めぐみ野」クッキング教室

●第37回宮城県めぐみ野交流集会

12月12日、仙台国際センターで、「第37回宮城県めぐみ野交流集会」を開催し、1,183人が参加しました。「めぐみ野」活動の意義と成果を確認し、産消提携の意義の理解を広げるために、生産者・メンバー（組合員）・各団体関係者が一同に会する場として毎年開催しています。



「めぐみ野」交流集会 全体会

●「めぐみ野」牛乳タオル1本運動

「めぐみ野」牛乳の生産者が搾乳する際に使用するタオルを集めて贈呈しています。2018年度は、7,593本のタオルが寄せられ生産者にお渡ししました。活動を開始した1992年からの累計は、111,485本になりました。



柏木店メンバー（組合員）からタオル贈呈

●「めぐみ野」ミニ交流会

生産者とメンバー（組合員）が直接お話し交流する「めぐみ野」ミニ交流会を10回開催し、307人が参加しました。参加者からは「生産者と、直接話ができて良かった。生産者は私たちのために安全な生産を続けていることが分かった。生産者を応援しようと思った。」との感想がありました。



「めぐみ野」ミニ交流会

●「めぐみ野」米バケツ稲栽培コンテスト

「めぐみ野」米バケツ稲は、21店舗で686家族に配付し、10月にはバケツ稲の栽培コンテストを実施しました。栽培日誌には日々の観察が書かれ、苗からお米になるまで、そして味わうことまでを体験しました。



「めぐみ野」米バケツ稲コンテスト

●「平成30年度地産地消等優良活動表彰」にて「東北農政局長賞」を受賞

農林水産省と全国地産地消推進協議会が主催する「平成３０年度地産地消等優良活動表彰」食品産業部門において、「東北農政局長賞」に選ばれました。

「顔とくらしの見える産直 めぐみ野」の取り組みを通じて、自然環境や生物多様性、農業や漁業の発展や食料自給率の向上に取り組んでいることが評価されました。



東北農政局長賞 授賞式

貢献するSDGs



第2章 メンバー（組合員）活動



自主的でいきいきとした活動

メンバー（組合員）の自主的な活動や、親子で参加できるイベントを通じて、地域コミュニティの強化や子育て支援を行っています。また、平和がくらしに最も重要であることが実感できるよう、平和について考える活動も行っています。

メンバー（組合員）活動

●楽しくてためになるこ～ぷ委員会活動

生協のさまざまな取り組みやくらしに関わることを知り、興味・関心のあることを自分たちで企画しました。「めぐみ野」商品やコープ商品・古今東北商品を食べて、知って、楽しく活動しました。



対応職員と一緒に

●サークル活動・カルチャー活動

あつまる・つながることに価値をおいたコミュニティ活動として「サークル」「カルチャー」を展開しています。「サークル」は、くらしや趣味を通してわいわいする活動、「カルチャー」は生協に登録した講師のもとで趣味や文化活動を楽しむ活動です。あわせて約6,700人のメンバー（組合員）が集会室などで活動しています。



太子堂店夏まつり発表

●みんなの居場所づくり「ふれあいカフェ」

地域に住む誰もが気軽に参加でき、つながりづくりやくらしの情報交換ができる居場所「ふれあいカフェ」を、42会場で開催しています。地域包括支援センターや医療生協など他団体と連携した開催も多く、お楽しみ企画や学習会などを取り入れながら交流できる場となっています。



柏木店のふれあいカフェ「アフタヌーンティー柏木」

◆メンバー活動の詳細はこちらからご覧になれます。
https://www.miyagi.coop/member/

フードドライブ

10月から12月までの期間、25店舗44エリアで実施しました。寄付先のニーズに合った食品を店舗で購入して寄付する活動で、総寄付数は2,293個となりました。寄付して頂いた食品は、支援を必要としている生活困窮者支援団体や母子支援施設、地域にある障がい児放課後デイサービスやこども食堂など16団体にお届けしました。



居場所づくり学習会の開催

2月25日、仙台国際センターにて、「地域の力を高めるボランティアを楽しもう〜仲間を広げ、意欲が高まる鍵はこれだ！〜」と題した学習会を開催しました。

当日は100人を超える参加者に、社会福祉法人大阪ボランティア協会常務理事の早瀬昇さんから、ボランティアや地域住民の参加の工夫と意欲が湧くヒントなどを楽しく伝えていただきました。

福祉施設出店

38エリアの「秋まつり」や「福祉まつり」、サークル発表会に、のべ59施設の福祉共同作業施設に出店していただきました。福祉施設や施設利用者との交流を通して、福祉の現状への理解を広げ、製品の利用により施設を支援し工賃（収入）向上の一助とすることができました。



貝ヶ森店 秋まつり

たべる・たいせつ料理教室「1時間でパパっとスピードおせち作っちゃおう!」

食文化の継承を考え伝統食を伝える調理実習の企画「1時間でパパっとスピードおせち作っちゃおう！」料理教室を、10月〜12月に6会場で開催し、メンバー（組合員）129人が参加しました。作るには敷居が高いと思われているおせちが、簡単スピーディに作れることをお知らせしました。



伊達巻を鬼すだれで巻きます

メンバー（組合員）向けの商品学習会

みやぎ生協では、お取引先様の企業などにご協力頂き、メンバー（組合員）を対象に産地見学や工場・施設見学、生協で扱っている商品の学習会などを実施しています。

2018年度見学会にご協力頂いたお取引先様（順不同・敬称略）

●㈱ナリス化粧品 ●キリンビール仙台工場 ●一ノ蔵本社蔵 ●㈱木の屋石巻水産●サンスター㈱ ●㈱だい久製麺 ●㈱ピックルスコーポレーション宮城ファクトリー ●㈱マルハニチロリテールサービス ●㈱ヤマトミ ●ニッカウヰスキー宮城峡蒸留所 ●(有)伊豆沼農産 ●岩沼洋菜生産組合●JAあさひな ●JAいしのまき ●JA加美よつば ●JAみどりの ●JAみやぎ仙南 ●ＪＡみやぎ登米 ●㈱志田金 ●大谷果樹組合 ●秋保大滝産直会 ●角田丸森産直牛乳生産組合 ●和雄と一郎の農場 ●㈱石巻青果 ●㈱加工連 ●㈱カネキ吉田商店 ●㈱仙台水産 ●㈱仙台宮水 ●㈱志田金 ●㈱行場商店 ●㈱シーテック仙都 ●㈱高橋商店 ●㈱トライベリーファーム ●㈱パールライス宮城 ●㈱ベジランド佐藤 ●プリマハム㈱ ●森永乳業㈱ ●雪印メグミルク㈱ ●気仙沼ほてい㈱ ●鳴子上原酪農組合 ●みちのくミルク㈱●宮城県漁協志津川支所 ●宮城県漁協谷川支所 ●㈱山神

2018年度学習会にご協力頂いたお取引先様（順不同・敬称略）

●三菱食品㈱ ●メルシャン㈱ ●白鶴酒造㈱ ●キリンビール㈱ ●小川珈琲㈱ ●UCC上島珈琲㈱ ●㈱伊藤園 ●協同乳業㈱ ●宮城中央ヤクルト販売㈱ ●大塚製薬㈱ ●大塚食品㈱ ●フジッコ㈱ ●太子食品工業㈱ ●タカノフーズ㈱ ●ホクト㈱ ●カゴメ㈱ ●キユーピー㈱ ●石井食品㈱ ●井村屋㈱ ●オタフクソース㈱ ●ブルドックソース㈱ ●ヤマキ㈱ ●エスビー食品㈱ ●竹本油脂㈱ ●㈱タカキベーカリー ●カバヤ食品㈱ ●岩塚製菓㈱ ●㈱ナリス化粧品 ●㈱クラブコスメチックス ●サンスター㈱ ●㈱日専連ライフサービス ●㈱クレハ ●宝酒造㈱ ●味の素AGF㈱ ●㈱ドトールコーヒー ●㈱喜作園 ●㈱コモ ●伊那食品工業㈱ ●カタギ食品㈱ ●成田食品㈱ ●㈱ヤマダフーズ ●イセ食品㈱ ●雪印メグミルク㈱ ●森永製菓㈱ ●小岩井乳業㈱ ●オハヨー乳業㈱ ●㈱明治 ●マルハニチロ㈱ ●日清オイリオグループ㈱ ●㈱ロッテアイス ●味の素㈱ ●キッコーマン食品㈱ ●ハウス食品㈱ ●きちみ製麺㈱ ●イートアンド㈱ ●花王グループマーケティング㈱ ●㈱タケイ ●㈱トキワ ●日本水産(株) ●日本製粉㈱ ●テーブルマーク㈱ ●日清食品冷凍㈱ ●ハインツ日本㈱ ●㈱日本香堂 ●㈱富士フイルムヘルスケアラボラトリー ●スリーエムジャパン㈱ ●㈱コジット ●武田コンシューマーヘルスケア㈱ ●ユニチャーム㈱ ●㈱マックプランニング ●㈱ヤマザキ ●グラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン㈱ ●東北電力㈱石巻営業所 ●㈱ニチレイフーズ ●ハナマルキ㈱ ●JAあさひな ●JAいしのまき ●JA加美よつば ●JAみどりの ●JAみやぎ仙南 ●JAみやぎ登米 ●JF大分上入津支店 ●大谷果樹組合 ●角田丸森産直牛乳生産組合 ●㈱石巻青果 ●㈱海祥 ●㈱加工連 ●㈱カネキ吉田商店 ●㈱パールライス宮城 ●㈱志田金 ●㈱仙台水産 ●十三漁業協同組合 ●鳴子上原酪農組合 ●プリマハム㈱ ●宮城県漁港 志津川支所 ●森永乳業㈱ ●仙都魚類㈱ ●㈲伊豆沼農産 ●㈲大槻ファーム ●岩沼洋菜生産組合 ●気仙沼ほてい㈱ ●古川生産者グループ ●三倉産業㈱ ●㈱高橋商店 ●石巻地域旬菜部会 ●森永乳業㈱ ●㈱ベジランド佐藤 ●トライベリーファーム

食育・子育て応援

子育てひろば

0歳～未就園児とご家族を対象に、ほっと一息つくゆとりを持ってもらうことで、子育てを楽しいと思える場として31会場で開催しました。親子で3,595人の参加があり、1,333人のボランティアスタッフが地域の子育てを見守りました。



子育てひろば

5ADAY食育体験ツアー

小学生が食育インストラクターや店の人に話を聞き「買い物ゲーム」や「サラダ作り」で野菜や果物を見て、触って、味わい、野菜と果物を食べる大切さを学習しました。2018年度は、多賀城市立多賀城東小学校と仙台市立七北田小学校を含め、小学校は18校で計49回開催し、1,545人の参加となりました。

保育園児を対象とした「5ADAYたべるのおはなし教室」は、今年初めて西多賀チェリー保育園、ちゃいるどらんど岩切保育園の2保育園で開催し、5歳児33人が参加しました。

◆5ADAY食育体験ツアー開催の様子はこちらからご覧になれます。
https://www.miyagi.coop/member/shokuiku/5aday/



旬菜市場の前で、どこを食べる野菜かの説明

COOPママのサポートクッキング

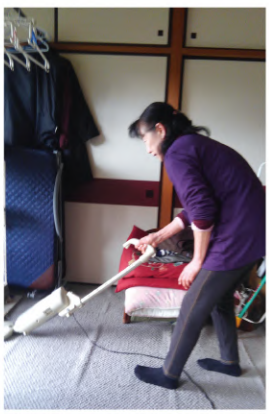
子育てひろばに参加する親子に「食」の楽しさを伝え、「食」に興味を持つきっかけ作りをするコープママのサポートクッキングを27会場で53回実施し、親子848人が参加しました。



コープママのサポートクッキング

こ～ぷくらしの助け合いの会

2018年7月からは岩沼市の日常生活援助サービスを、同年4月からは石巻の総合事業訪問型サービスを受託し、のべ252人の方を195人の活動会員が援助しました。こ～ぷくらしの助け合いの会全体では、1年間で高齢者の方、障がいを持っている方への家事支援を中心に通院同行や子育て家庭へのお手伝いなど、29,163時間の活動が行われました。今後も、地域で安心してくらせるように、できる時に できる人ができることで ちょっぴりお手伝い助け合いの輪を広げていきます。



こ～ぷくらしの助け合いの会

こ～ぷくらしの助け合いとは

メンバー（組合員）どうしの助け合い活動として1985年に設立されました。こ～ぷくらしの助け合いの会は利用会員・活動会員・賛助会員で構成されています。活動は高齢者、障がいや病気の方、また若い子育て家庭も対象に支援活動が行われています。会員になるためには年会費1,000円が必要です。
（活動会員・賛助会員はメンバー（組合員）であること）

会員数:活動会員584人、利用会員1,320人、賛助会員434人（2019年3月20日現在）

平和について考える活動

ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名

「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名（ヒバクシャ国際署名）」は、こ～ぷ委員会や地域のさまざまな平和の企画でも取り組み、7,912筆を集めました。累計では30,899筆になり、核兵器廃絶の取り組みをすすめました。



ヒバクシャ国際署名

ヒロシマ平和行動

8月4～6日の「ヒロシマ平和行動」で、被爆者の体験を学習した参加者の報告会を8月18日に開催し、33人が参加しました。広島へ派遣した親子4組、高校生1人の報告では、碑めぐりや被爆者の証言で知った被爆の実相から感じたことを発表し、参加者と平和への思いを共有しました。


「ヒロシマ平和行動」参加者

沖縄戦跡・基地めぐり

現在の沖縄における諸問題やこれからの平和について考えることを目的とした「沖縄戦跡・基地めぐり」へ3月28～30日に親子3組6人を派遣しました。その報告会を4月7日に開催し、50人が参加しました。地上戦の傷跡や今なお残る米軍基地など、沖縄の現状を目のあたりにして、平和の大切さを訴えました。



「沖縄戦跡・基地めぐり」参加者

憲法9条を守る活動

「憲法9条を守り活かす宮城のつどい2018」が11月18日、仙台サンプラザホールで開催され1,200人が参加しました。第1部の講演では、弁護士の伊藤真さんが、「私たちが決める日本の未来」という演題で講演しました。第2部では仙台弁護士会有志でつくるビックバンドスウィングローヤーズによるミニコンサートがあり、会場は大いに盛り上がり、憲法9条を守ることの大切さを再認識し合う場になりました。

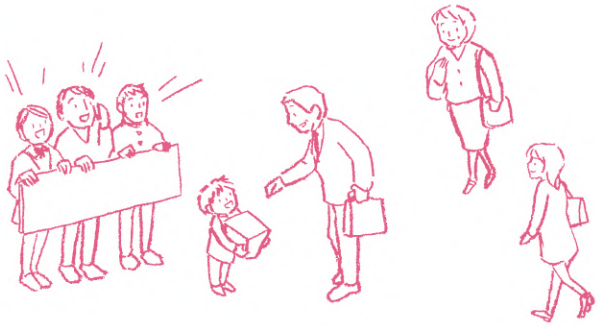


憲法9条を守り生かす宮城のつどい2018

◆平和とくらしに関する詳細はこちらからご覧になれます。https://www.miyagi.coop/member/heiwa/

貢献するSDGs

第3章 社会貢献活動



地域社会のセーフティネットとして・・・

宮城県内に約75万人のメンバー（組合員）を抱える生協として、地域社会のくらしや福祉が向上するために、様々な活動をしています。自治体や地元のNPO、社会福祉協議会などとも連携した地域貢献のほか、ユニセフを通じた国際社会への支援も続けています。



くらしと家計の相談室〈ご相談からご融資までをサポート！〉

“くらしと家計の相談室”（生活相談・家計再生支援貸付事業）では、お金に関する様々なご相談を承ります。

突発的な資金需要や転職に伴う資金繰り、教育費の捻出や借金に関するご相談など、家計の問題の解決方法を相談者と一緒に考えます。

困りごとの解決に資金の調達が必要な場合は、生協独自の貸付支援も検討しています。

相談事例 Case　クレジット（リボ払い）に頼らない家計管理をアドバイス

40代女性、母子家庭で年収400万円。クレジットカード2社のリボ払いを使っていたら、いつの間にかそれぞれ限度額いっぱいの50万円の債務となっていた。金利が18%と高く、月々の返済も3万円近くで、なかなか残高が減らない。

⇒　現在の家計収支を整理したところ、リボ払いの利用は必要がないことが分かりました。今後は極力クレジットに頼らない家計管理を約束し、教育費の準備のための貯蓄を進めることをアドバイス。債務残は、生協金利9%で100万円60回払いの貸付支援により、繰り上げ完済を実行。月20,758円の返済として、家計改善を図りました。

みやぎ生協 くらしと家計の相談室
相談からご融資までをサポート!

☎022-292-5015

仙台市宮城野区榴岡2-3-15 花本ビル8階
受付時間：月曜日～土曜日10:00～17:00（日・祝日を除く）

2018年度 相談・貸付の状況

	2018年度	事業累計
電話相談受付数	724件	5,149件
面談相談者数	364件	2,694件
貸付支援件数	126件	904件
貸付支援金額	1億1,084万円	7億8,096万円

（2019年3月20日現在）

◎みやぎ生協は、生活困窮者自立支援法に基づき、2018年度宮城県家計改善支援事業を受託しました。宮城県内の市部以外の町村を対象に、県内3か所の家計改善支援窓口をそれぞれ週1回開設し、管轄地域の相談者の家計改善に取り組んでいます。1年間で延べ100件の相談対応を行いました。

○宮城県南部仙南窓口（ＪＲ大河原駅前）
○宮城県南部宮城黒川窓口（ＪＲ本塩釜駅前）
○宮城県北部窓口（ＪＲ古川駅前）

2019年度も受託を継続することになり、行政や地域の関係機関との連携を図りながら、相談・貸付事業という新しい地域資源として、役割を発揮していきます。

くらしの相談ダイヤル

くらしに関わる様々な相談を、一括して受け付けています。

お寄せいただいた相談内容は、みやぎ生協のメンバー（組合員）活動や事業サービスへのご紹介、連携している他団体などにおつなぎし、解決できるようにしています。

☎022-292-5016

受付時間：月曜日～土曜日10:00～16:00（日・祝日を除く）

大切な食べ物を必要としている人に届けます。

COOP フードバンク

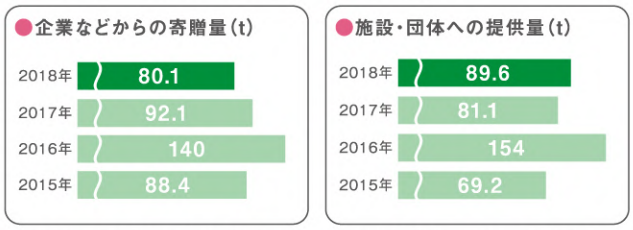


マスコットキャラクター「フ～助」

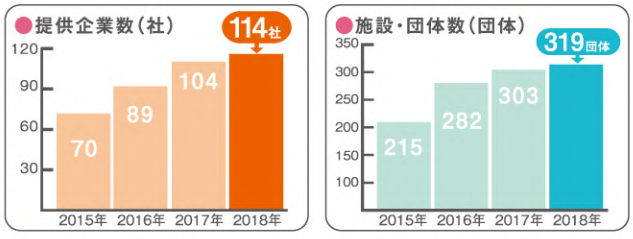
コープフードバンクがめざすもの

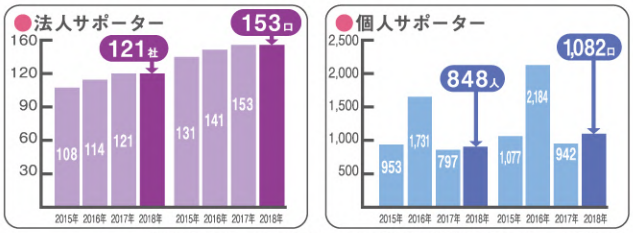
お取引様の食品企業等から余剰食品の無償提供を受け、社会福祉に寄与する団体・組織へ無償で提供しています。食品の無駄をなくすとともに、誰でも安心してくらせる地域づくりを目指しています。

コープフードバンクの1年間の活動



※寄贈量と提供量の差については、賞味期限が長いもの等、倉庫に在庫しております。期限を見ながら計画的に出荷しております。



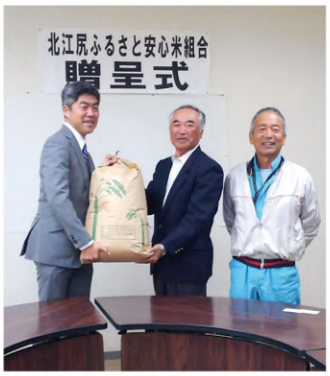


※2017年度から、みやぎ生協で実施している個人の賛助金申込数を除いています。

●ボランティアに参加してくれた人数　延べ **111** 人

めぐみ野米寄贈

11月8日「角田北江尻ふるさと安心米生産組合」(めぐみ野米生産者)様より、収穫したばかりの玄米450kgを寄贈して頂きました。生産組合の組合員の方が、怪我により田植えを断念することになり、耕作放棄地にしないために、他の組合員が田植えを行い、そこで収穫されたお米を全量コープフードバンクに寄贈して頂きました。



ふるさと安心米贈呈式

宮城県から災害用備蓄品寄贈

みやぎ生協と宮城県は「安心して暮らせる地域づくり」のため、包括連携協定を結んでいます。また、「フードバンク支援事業補助金」を2年連続頂いています。そのことから今回、宮城県の災害用備蓄品で賞味期限が近づいたもの(おでん缶・保存用お餅・備蓄用パン・水など)662kg寄贈して頂きました。



災害用備蓄品寄贈

2018年3月21日現在、法人サポーター企業様121社(五十音順)

●あいおいニッセイ同和損害保険(株)東北本部
●㈱アースティック
●アクアクララ㈱
●アフラック仙台総合支社
●㈱あらた仙台支店
●㈱イーネット
●イカリ消毒仙台㈱
●㈱イーグル
●砂金石油ガス㈱
●㈱一条工務店宮城
●㈱伊藤園
●伊藤忠商事㈱
●ウォールテック㈱
●内池醸造㈱
●エイムカイワ㈱
●江崎グリコ㈱
●㈱エスデーファイブ
●SBSゼンツウ㈱
●大塚食品㈱
●㈱大沼製菓
●オリックス自動車㈱
●勝山企業㈱
●加藤産業㈱仙台支店
●㈱神奈川クリーニング
●共栄火災海上保険㈱東北支店仙台支社
●空調技工㈱
●㈱グラビアジャパン
●コカ・コーラボトラーズジャパン㈱
●国分東北㈱
●国分フードクリエイト㈱東北支社
●㈱コスモジャパン
●㈱コム
●有限責任事業組合コムワーク・プロジェクト
●小山産業㈱
●㈱サイコー
●㈱斎良工業
●佐川印刷㈱
●㈱サトー商会
●㈱佐元工務店
●三協青果㈱
●㈱サン・ベンディング東北
●㈱シーテック仙都
●㈱七十七銀行
●㈱清水
●㈱新出光東京支店
●㈱伸電
●JAかごしま茶業㈱
●㈱事務機商事
●JTB印刷㈱
●スモリ工業㈱
●㈱清月記
●セルティックエンジニアリング㈱
●㈱仙水センター
●㈱仙台水産
●仙台中央青果卸売㈱
●㈲仙台トクエ
●㈱仙台放送
●㈱仙台丸水配送
●㈲仙南瓦工業
●㈱ゼンケン
●損害保険ジャパン日本興亜㈱
●㈱第一エージェンシー
●㈱だい久製麺
●㈱タイハク
●㈱多田紙工
●㈱ダンク
●㈱デイリーフーズ東北支店
●㈱電通東日本
●東京海上日動火災保険㈱
●東通インテグレート㈱
●東北共栄建設㈱
●㈱東流社
●㈱富樫工業
●㈱トキワ
●凸版印刷㈱東日本事業本部
●西松建設㈱北日本支社
●㈱日専連ライフサービス
●㈱日本アクセス東北支社
●㈱日本経済広告社
●日本酒類販売株式会社
●日本生活協同組合連合会
●日本労働者協同組合連合会センター事業団東北事業本部
●ネスレ日本㈱北日本支社
●㈱ノダ
●税理士法人 橋浦会計事務所
●パナソニック産機システムズ㈱東北支店
●㈱パールライス宮城
●㈱ヒューテックノオリン東北支店
●㈱ビープロ
●㈱フクシン
●㈱フクダ・アンド・パートナーズ
●富士ゼロックス宮城㈱
●㈱プランニング・オフィス社
●㈱ホクトコーポレーション
●㈱ボイス仙台支社
●ボーキ佐藤㈱仙台支店
●ボーキ佐藤燃料㈱
●㈱ポップセンターさくら
●松印松浦青果㈱
●マリッジパートナーズ㈱
●丸庄クリーニング㈱
●㈱マルタマ
●丸大堀内㈱
●マルニ食品㈱
●マルホン㈱
●三井不動産リアルティ東北㈱
●三菱食品㈱東北支社
●㈱みなとモーター
●㈱宮果
●みやぎ県南医療生活協同組合
●公益財団法人宮城厚生協会
●更生保護法人宮城東華会
●㈱宮城読売IS
●明治安田生命保険相互会社東北公法人部法人営業部
●メフレ㈱
●㈱守屋青果物商店
●㈲やない製麺
●㈱リビング・プロモーション
●㈱リブネット東北
●㈱流通サービス
●六興電気㈱東北支店

地域社会への貢献･･･

加入率が宮城県内の世帯数比約75%となっている生協として、自治体や地域のNPO法人などと協力し、安心してくらせる地域づくりに向けた様々な活動を行っています。また、メンバー（組合員）や子どもたちが参加し、平和や貧困など、国際的な問題と向き合う活動を行っています。

子育て支援

すくすくばこ

宮城県の新生児の誕生をお祝いし健やかな成長を願ってギフトボックスをお届けする取り組み。みやぎ生協と河北新報社が主催し、宮城県の後援を受けています。はこには、オリジナルアルバムや協賛企業様からの育児グッズのプレゼントなどが入っており、はこは、赤ちゃんがすくすくと成長していく過程での思い出の品を保管するタイムカプセルとしての役割を担います。



2017年10月に開始し、2019年4月現在1万人を超える方に申し込みを頂いています



ココイククラブ

子育て家族を応援する会員サービスで、妊娠中から6歳未満の子どもを持つメンバー（組合員）が対象。共同購入ママ割利用者は自動で会員になります。子どもが6歳の誕生日を迎えた月末まで店舗100円割引券をレジで月1回発券するほか、個配手数料半額など、事業の利用で受けられる特典を用意。また子育てガイドブック、提携店で使える応援クーポン、コーすけタオルのプレゼントのほか、希望者にはお名前シールの発行、子育て情報の配信もあります。



2017年11月に開始し、2019年4月現在1万8千人を超すメンバー（組合員）に登録頂いています

子育て支援講演会

こ～ぷ家庭教育センターでは、脳科学者の篠原菊紀先生を迎え、「こどもが勉強好きになるための親の接し方」という演題で、10月17日に日立システムズホールで「子育て支援講演会」を開催しました。



子育て支援講演会

みやぎの子どもたちに夢と希望を!

学校部では、提携住宅メーカー（ミサワホーム株式会社様）にご協力頂き南極観測隊スタッフによる「南極クラス」を県内の学校40校で開催しました。"未知の世界"である南極での活動を伝えたり、南極の氷の音を聞いたりして、未来を担う子どもたちに夢と希望を届けました。



南極観測隊による南極クラス

地域で活動する団体への支援

ふれあい製品のお店「はぁと」

セラビ幸町店にあるふれあい製品のお店「はぁと」は、「仙台市障害者販売業務訓練等事業」を行う店舗として、福祉施設で作られた製品の展示・販売を行っています。障がいのある方が店舗での販売・接客を通して一般就労に向けた経験を積み、社会体験や視野を広げる機会となっています。一般メンバー（組合員）のべ358人が、ボランティアで参加しました。



ふれあい製品のお店「はぁと」

ありのまま舎会報 折り込みボランティア

難病患者・重度障がい者への理解を広めている社会福祉法人ありのまま舎の会報の折込み作業に、のべ75人がボランティアとして協力しました。

こども食堂への支援（パワーアッププロジェクト）

孤食を防ぎ、多世代との交流ができる場として宮城県内でも多く立ち上がっている「こども食堂」。みやぎ生協の店舗の集会室や調理室を無償提供し、現在8店舗（幸町、桜ヶ丘店、多賀城店、鶴ケ谷店、荒井店、亘理店、貝ヶ森店、加賀野店）で、NPOやボランティアグループが食事提供をしながら、団らんの場づくりをしています。

また、せんだいこども食堂、仙台市社会福祉協議会と協働でこども食堂パワーアッププロジェクトを開催。こども食堂の運営や衛生についての学習会、物資支援などにも応援をしています。



こども食堂パワーアッププロジェクト

認知症カフェへの協力

地域包括支援センターや認知症の人と家族の会などが主催する「認知症カフェ」や「介護予防教室」に、23店舗・事業所を会場として提供しました。さらに、地域や団体と連携をすすめ、認知症サポーター養成講座や脳トレ・転倒予防教室の開催にも発展しています。



認知症の学習をしているカフェ

◆福祉に関する詳細はこちらからご覧になれます。https://www.miyagi.coop/member/fukushi/

みやぎ生協福祉活動助成金

地域福祉に関する活動へ助成するみやぎ生協福祉活動助成金。2018年度は45団体へ合計9,850,000円を助成しました。障がい者や子どもの居場所づくりの情報発信支援など、地域の中で多様な参加が生まれる取り組みへの支援となりました。

これまでの助成累計はのべ605団体、1億25,951千円となっています。



みやぎ生協福祉活動助成金贈呈式

みやぎ生協福祉活動助成金助成団体一覧

- 柴田町朗読ボランティア結
- こみこみ宮城支部
- 点字サークル「てん花」
- 親子うたあそび応援団
- 一般社団法人 ハッピーパンツ・ジャパン
- 水梨キッズかふぇ
- チェリーズ
- 非営利団体虹の橋
- みんなで楽しみながら食べる食楽食堂
- 一般社団法人仙台先進学習 サポート
- D-Smile TOHOKU
- アトリエ虹色たまご
- 精神障害者自助グループ「心のネットワークみやぎ」
- ハートウエーブ
- ライトハウス
- 一般社団法人 生活応援倶楽部から〜ず
- 仙台に夜間中学をつくり育てる会
- 特定非営利活動法人J-PAL
- 学び塾「あすなろくらぶ」
- みやぎ盲ろう児・者友の会
- 優生手術被害者とともに歩む みやぎの会
- NPO起立性調節障害 東北仙台親の会
- 石巻専修大学支援サークル「ひだまり」

2018年度上期 ■助成数:23団体 ■助成金 4,950,000円

- 一般社団法人 ライトハウス
- 大崎 不登校を考える会
- グッドタイミング
- ここほっとネット
- 宮城県手話通訳問題研究会
- 特定非営利活動法人 水梨かふぇ
- 特定非営利活動法人 おりざの家
- 東仙台子ども食堂
- いわぬま・こども食堂＋
- 名取元気コミュニティ応援団
- おたからのわ『結』
- くろかわ子ども食堂 みらいのたね
- なかだ子育てママの応援サークル なぽ
- SENDAI NPO子育て応援隊 ピンポンパン☆
- ㋐
- Naritaマルシェ
- 重症心身障がい児者親の会 ベリーの会
- JINA食堂ーみんなあがいんー
- 朗読サロンポプラ
- 特定非営利活動法人 Synapse40
- みさとひまわり食堂の会
- 個人（荒 ひろみ）

2018年度下期 ■助成数:22団体 ■助成金 4,900,000円

COOPトリプルカードみやぎスマイル基金

2016年、「COOPトリプルカード」発行30周年を記念し、みやぎ生協と（株）日専連ライフサービスが創設した「COOPトリプルカード みやぎスマイル基金」。第2回贈呈式を開催し、申請のあった36団体のうち、13団体に合計約300万円の助成金を贈呈しました。この基金では、COOPトリプルカードでの決済1回につき1円を1年間積み立て、年に1度、社会貢献のために活動している組織・団体等に贈呈、活動を支援しています。



「COOPトリプルカード みやぎスマイル基金」第2回贈呈式

交通遺児教育手当等に寄付

みやぎ生協提携車検工場会では、「2017年度提携車検工場に入庫していただいた車の台数×50円」を交通遺児等教育手当に寄付。入庫台数3,635台分となる181,750円を寄付しました。



宮城県教育委員会での贈呈式

自治体・他団体との協力

首長・議員懇談会

「誰もが安心してくらせる地域づくり」をテーマに、2018年度は宮城県内35自治体中31自治体の首長と懇談しました。また14人の県議、23人の仙台市議との懇談のほか、2018年度は初めて国会議員との懇談も行いました。メンバー（組合員）のべ750人が参加し、みやぎ生協の活動を伝え、地域で共に取り組めること、くらしの向上のために連携できることを話し合う機会となっています。



仙台市長との懇談会

自治体との包括連携協定

みやぎ生協では、誰もが安心して暮らせる地域づくりを推進することを目的に、幅広い分野での連携に関する協定を各自治体と締結しています。

2018年度までに包括連携協定を締結している自治体は、宮城県・石巻市・七ヶ宿町・塩釜市・大崎市・富谷市・仙台市・白石市・利府町となっています。

日本赤十字社との災害協定締結

2016年、日本赤十字社宮城県支部と「災害時における物資支援協力に関する協定」を締結しました。自治体以外の災害協定締結はこれが初めてです。

緊急消防援助隊派遣時の食料品供給協力協定

大規模災害時、県より緊急消防援助隊に派遣要請があった際、援助隊員は食糧等を十分に確保できない状況がありました。みやぎ生協は、仙台市消防局、石巻地区広域消防組合消防本部から相談を受け覚書を締結、消防局の要請を受け、速やかに隊員の食糧を店舗から提供しています。

2018年度は、北海道胆振東部地震の際、仙台市・石巻市より協力要請があり対応しました。

募金活動・災害支援

様々な募金による支援

通年で取り組む店舗でのレジ募金・募金箱に加え、災害緊急募金、被災者支援活動応援募金へも取り組みました。共同購入注文書や職員からの募金を併せ、総額16,562千円となり、多くのメンバー（組合員）のご協力によって支援につながりました。また、6月に発生した大阪北部地震では、「みやぎ生協震災復興・災害支援金等積立金」より100万円を大阪府社協へ、7月西日本豪雨災害では180万円を広島・岡山・愛媛県社協、倉敷市社協へ寄付しました。

〈内訳〉

- COOP緑の基金 …… 840,965円
- コープフードバンク …… 349,238円
- ユニセフ募金 …… 2,963,564円
- 盲導犬募金 …… 1,080,905円
- 平成30年7月豪雨募金 …… 5,445,816円
- 平成30年北海道胆振東部地震支援募金 …… 2,552,078円
- みやぎ生協被災者支援活動応援募金 …… 3,071,221円
- 骨髄バンク募金 …… 258,800円

※なお、みやぎ生協被災者支援活動応援募金はみやぎ生協で実施している、東日本大震災被災者支援の取り組みのために活用させて頂きます。

国際社会への支援・・・

様々な途上国支援

特定非営利活動法人「ハンガー・フリー・ワールド」の活動に協力し、書き損じハガキ、切手、CDなどを回収・換金し、4つの開発途上国の自立支援の活動と「みやぎ生協平和募金」に役立てています。

ユニセフの取り組み

ユニセフは、すべての子どもの命と権利を守るために活動する国連機関です。メンバー（組合員）が気軽に国際協力に参加できるよう、店舗での募金箱設置や共同購入注文書、エリアでのハンド・イン・ハンドなど、さまざまなユニセフ支援に取り組んでいます。リサイクルの紙パックやペットボトルキャップの売却代金もユニセフ募金に充てられています。

■2018年度ユニセフ募金額

メンバー（組合員）からの一般募金	2,963,564円
紙パック回収による募金	2,874,815円
ペットボトルキャップ回収による募金	34,736円
合　計	5,873,115円

※全体から東ティモール指定募金へ420万円拠出しました。



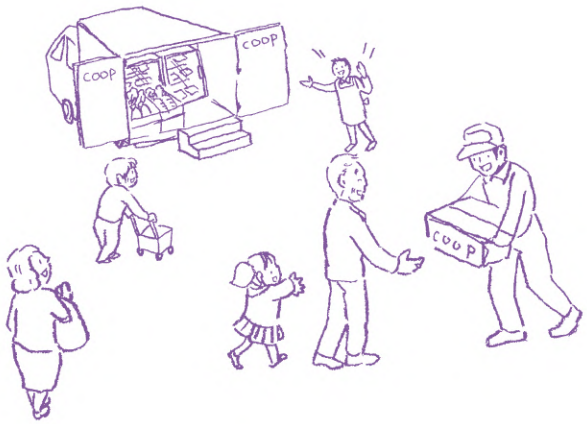


街頭募金活動

貢献するSDGs



第4章 事業活動



くらしに役立つ事業

みやぎ生協は、メンバー（組合員）からのご要望、ご意見を生かすことを基本方針として事業を運営しています。店舗や共同購入はもちろん、サービス事業や福祉事業など、地域社会に必要とされる事業に、これからも幅広く対応していきます。

店舗

●買い物を楽しく、快適に

メンバー（組合員）が探しやすい、選びやすい商品の陳列やわかりやすい案内表示に努めています。ジャストインタイム（必要なものを、必要な量だけ、必要なときに）の品揃えの充実を目指し、特に夕帯から夜間にかけて作りたて、出来たて商品の販売を実施しています。サービス・ケア・アテンダント資格者を全店に配置し、お買い物のお手伝いをしています。また2018年9月から桜ヶ丘店・幸町店・鶴ヶ谷店で宅配受け取りロッカー（PUDOステーション）のサービスを開始し、利便性の高い店舗を目指しています。



BRANCH仙台店の店内

●A&COOP角田店開店

2018年10月19日に（株）Aコープ東北とみやぎ生協が共同で運営する「A&COOP角田店」がオープンしました。2015年10月に全国で初めての協同組合間による「A&COOP松島店」に次ぐ2号店となります。角田市はみやぎ生協の産直「めぐみ野」発祥の地であり、産消提携など事業提携を進めてきました。国産農畜産物の消費拡大や地域社会発展への貢献を目指しており、JAグループの総合力とみやぎ生協の独自商品力を活かしたサービスと商品を提供していきます。



A&COOP角田店

●BRANCH（ブランチ）仙台店開店

2018年11月29日、みやぎ生協51店舗目となるBRANCH（ブランチ）仙台店がオープンしました。多様なライフスタイルに合わせた食提案型の鮮度感あふれる売場構成に仕上げ、安全・安心、そしておいしい商品の提供とお買い物が楽しくなる心地よい空間を目指した店舗です。



BRANCH仙台店

MiiCA（ミイカ）

電子マネー「メンバー（組合員）コード付MiiCA（ミイカ）」は2017年11月からの導入以来、ホルダー数は2019年2月度までの累計で95,043件となり、利用率は全店平均14.7%となっています。1,000円チャージごとに3ポイント、300円利用ごとに通常ポイントにプラス1ポイントが付くお得なカードです。



Family Mart+COOP（七ヶ宿店・鶴ヶ谷店）

みやぎ生協の子会社㈱コープコンビニエンスが運営するコンビニ Family Mart+COOP（七ヶ宿店・鶴ヶ谷店）は、通常のファミリーマートの取り扱い商品に加え、生協の生鮮商品・惣菜商品・コープ商品も販売します。店内には気軽に休憩できるイートインコーナーも設置し、日常のお買い物・お友達同士で集えるコミュニティーのある地元密着型の店舗を目指しています。



Family Mart+COOP鶴ヶ谷店

共同購入

高齢者の見守り活動

配達時にいつもと違う、気になる状況、異変に気付いた場合にセンターへ報告し、センターから行政窓口への連絡をして安否を確認する見守り活動の取り組みで2018年度は55件、うち毎日配達のある夕食宅配配達時が38件と多くの気づきがありました。取り組みを開始した2012年2月からは、累計で216件の連絡と対応がありました。



くらしを応援する優遇サービス

個人宅配利用者の基本手数料240円（本体）をサポートする5つのサービス、ママ割、シニア割、介護サポート値引、障がい者サポート値引、復興支援サービスは、現在50,156人がサポートを受けており、2018年度も11,203人が新たにサポートを受け付けました。基本手数料の値引きサービスは多くの個人宅配利用者に喜ばれております。

サポートの適用条件やサポート値引き金額はそれぞれ異なりますので共同購入各センターへお問い合わせください。

個配メールサービス

個人宅配利用者の離れて暮らすご家族へ、配達時の在宅状況を登録されたメールアドレスへお知らせする登録無料の個配メールサービスは2018年度までに172人が利用しています。個人宅配を通じてお役に立てるサービスを今後も継続します。



夕食宅配サービス

調理や買い物が大変という方へ、温めるだけで食べられる夕食を、1食からお届けしています。管理栄養士が考えたバランスの良い日替わりの献立で、日々の食事をサポートし、ご利用の皆様や、ご家族にも喜んで頂いています。



サービス事業

ビストロラウンジCosteria（コステリア）

みやぎ生協の子会社㈱コープ総合サービスが運営するレストラン「コステリア」を一番町に開店して3年目を迎えました。みやぎ生協の「めぐみ野」商品と東北の食を応援する古今東北商品などを使用した食事やお酒を提供しています。気軽で明るい雰囲気のお店として、親しい方とのお食事だけでなく結婚式の二次会や婚活などのイベントでも、多くのメンバー（組合員）にご利用頂いています。


ビストロラウンジ コステリア店内

住まいのセンター

住まいのセンターでは、自然エネルギーによる発電とCO_2排出量の削減で環境保全に貢献するため、断熱ガラスと太陽光発電の普及拡大に取り組みました。コープの快適リフォーム情報誌『Reフレッシュ』で毎月紹介したほか、断熱ガラスのサンプルを使って熱伝導を体験できる無料相談会をのべ40回、店舗で実施しました。断熱ガラスを利用したメンバー（組合員）からは、「予想以上に防寒効果があり、大変うれしい」という声を頂いております。

宅配水（アクアクララみやぎ生協）

アクアクララみやぎ生協は、みやぎ食品衛生自主管理認証制度（みやぎHACCP）のプレミアム認証を取得し、県で定めた衛生管理基準に適合した自社施設で製造しています。

2018年10月に食品衛生優良施設の厚生労働大臣表彰を受けました。安全でおいしい水、ご家庭の備蓄として災害時にも安心です。12リットルと7リットルの2種類をご用意し宮城県内1万900世帯のメンバー（組合員）に利用頂いています。



アクアクララみやぎ生協 製造工場内

コープトラベル東北

㈱コープトラベル東北は、みやぎ生協、いわて生協、生協共立社の出資で1994年に旅行事業を開始し、2018年からはふくしまも加わりました。生協の組合員さんからの国内・海外旅行、お取引先様の社員旅行等、様々な旅行業務全般を手配し、JTBや近畿日本ツーリストの国内・海外のパック旅行も取り扱いできます。

2019年より近畿日本ツーリストと共同でスマホから旅行の申し込みができるようになりました。詳しくはQRコードから内容をご覧ください。

コインランドリー 洗濯屋工房

みやぎ生協の子会社（株）コープ総合サービスで運営する「コインランドリー洗濯屋工房」は、事業開始から5年目を迎えました。現在、3店舗でみやぎ生協店舗の明石台店、富沢店、Family Mart＋COOP七ヶ宿店の敷地内にあります。大型洗濯機や乾燥機があり、羽毛布団や毛布なども洗濯でき喜ばれています。



洗濯屋工房 七ヶ宿店

インターネット事業

@（あっと）コープ

共同購入、個人宅配の注文をスマートフォンやパソコンでWebカタログを見ながら注文ができて、注文の履歴や利用金額をいつでも確認できます。また店のチラシをメールで受け取ったり、お寿司やオードブルなどの予約商品を時間や店舗を指定して受け取ることができます。その他にもギフトやプリントサービスなど、生協のお買い物を便利にするインターネットサービスです。



スマホでコープ!

LINE@（あっと）

みやぎ生協LINE@にお友だち登録すると、お店のセール情報や生協のイベント情報など、お得な情報を受け取ることができます。さらにメンバー（組合員）コードを登録すると、毎週金曜日と土曜日のお店でのお買い物でコープポイントがプレゼントされます。共同購入のWeek紙面には特定商品が30円引きになるLINE@登録特典があります。

かんたん脳トレ（簡単タブレット）

音声、地図検索や動画などの便利な機能はもちろん、共同購入の注文が簡単にできるアプリや、東北大学の川島隆太教授が監修した脳トレゲームがセットアップされたタブレットです。

CO・OP共済

● 自転車保険等義務化啓蒙活動

一層の自転車の安全利用を図るため制定された「仙台市自転車の安全利用に関する条例」により、2019年4月1日から自転車損害賠償保険等への加入が義務化されました。コープ共済は、条例の周知や自転車損害賠償保険等の情報提供・加入促進活動を積極的に行っています。



街頭での啓蒙活動

こーぷ福祉会

● こーぷ福祉会の介護事業

みやぎ生協はその福祉理念を高齢者の介護保険事業で実践するために、1999年に社会福祉法人こーぷ福祉会を設立し、今年で20年目を迎えます。

こーぷ福祉会は地域の高齢者が在宅でくらし続けられる介護の拠点を桜ヶ丘、石巻蛇田、緑ヶ丘の3ヶ所に設置して、デイサービス、訪問介護、居宅介護、定期巡回訪問介護・看護サービスを提供しています。2016年より「こ〜ぷなごみの杜 桜ヶ丘」というサービス付き高齢者向け住宅とショートステイ（宿泊）サービスを開設しました。また、みやぎ生協桜ヶ丘店内に介護の相談窓口として仙台市委託事業である桜ヶ丘地域包括支援センターを運営しています。

これらのサービスを介護専門職など177人の職員で運営しています。また、160人の後援会会員とのべ約2,000人のボランティアが日々、こーぷ福祉会の活動を支えています。

利用者が保持している自立できる生活や身体能力を引き出す自立支援を介護の基本に据え、「生協10の基本ケア」に取り組みました。また機能訓練指導員（理学訓練士、作業療法士）を配置し、そうした取り組みを専門的に援助しています。

● ショートステイ併設 サービス付き高齢者向け住宅

高齢者の方が安心して地域でくらしていける新たなサービスとしてサービス付き高齢者向け住宅を開設し、こ〜ぷのお家桜ヶ丘の定期巡回ケアステーションサービスを合わせて、地域でくらし続けられる条件を整備しました。





こ〜ぷなごみの杜 桜ケ丘

● 職員、地域の待機児童対策として保育園を開設

2017年4月に開設した仙台市認可の地域型保育事業「コープこやぎの保育園（事業所内保育施設）」（定員32人）は従業員枠14人、地域枠16人の合計30人が利用しています。



コープこやぎ保育園 仙台89ERSとの交流

学校部・㈱宮城県学校用品協会

学校部・㈱宮城県学校用品協会

㈱宮城県学校用品協会は、みやぎ生協の子会社で、県内の学校への教材販売や家庭学習教材・学習教室事業を担っています。

●『学校・先生方に役立つ情報提供』COOP授業に役立つ学習ガイド

学校部では、みやぎ生協で行っている、環境・食・福祉・ユニセフなどの活動から、学校での学習素材として使えるものを『COOP 授業に役立つ学習ガイドブック』にまとめて掲載し、県内全小・中学校へお届けしています。



※DVD貸し出し、資料提供・頒布、生協店舗や取引先見学、生協事業所職場体験等の受入など

●職場体験・見学の受け入れ

職場体験実習・見学は店舗を中心に共同購入・学校部・ディサービスセンター・産直コースなどを設定しています。2018年度は職場体験・実習職場見学(49校71件)、食育体験店舗ツアー(18校)などを受け入れました。

●学校教材販売事業

㈱宮城県学校用品協会は、県内すべての学校へ教材教具、備品、体育着などを販売しています。「よりよい教材をより安く」というテーマのもと、日常的に教育現場の先生方のご意見を聴き取り、児童生徒に役立ち、先生が指導しやすい教材の提供をモットーにしています。また、各小中学校教科研究会の出版物・図書の編集、販売支援をしています。代表的なものとしては、小中書写研究会の書きぞめ手本作成印刷、書きぞめ展覧会の後援や仙台市小学校教科研究会編集発行の夏休みドリル帳があります。今年の書きぞめ展覧会には、20,344人の来場者がありました。





第72回書きぞめ展覧会の様子

●教育助成制度

㈱宮城県学校用品協会は、宮城県内の学校教育の進展に寄与することを目的に、学校用品事業を通して生まれた収益の一部から小中学校の教育実践活動へ「教育助成」を行っています。学校研究活動助成や教育講演会・講習会の講師紹介・派遣など、様々な教育研究活動や授業に役立てられています。



2018年度教育研究活動助成金交付式

●こ〜ぷ家庭教育センター

幼児〜中学生までの家庭学習教材販売、学習教室、英会話教室事業を通して、子どもたちの学力向上、家庭学習の充実を支援しています。学童保育事業として「こ〜ぷアフタースクール」のほか、プログラミングを学習する「こ〜ぷプログラミングクラブ」を生協の各店舗で開催しています。



こ〜ぷプログラミングクラブ

●学校用品ネットショップ

㈱宮城県学校用品協会の独自ネットショップ「学校用品.net」では、学校指定体育着や水泳用品、学校で使用する用品(書きぞめ用品、とびなわ、リコーダーなど)をパソコンやスマホから購入できます。

学校用品.netアドレス　https://www.gakkouyouhin.net/



コープのでんきCOCOENE（ココエネ）

コープでんき東北

COCO ENE

● コープのでんきCOCOENE（ココエネ）とは

コープのでんきCOCOENE（ココエネ）は、2017年11月からみやぎ生協が販売をスタートした、メンバー（組合員）向けの「でんき」です。みやぎ生協では、環境負荷の少ない電気、原発に頼らない電気を利用したいというメンバー（組合員）のニーズに対応し、FIT電気※（再生可能エネルギーにより発電された電気）を積極的に取り入れた電気を販売し、メンバー（組合員）と一緒にエネルギー自給率向上と持続可能な社会の実現を目指しています。また、既存電力会社の販売単価よりも安い電気も供給し、メンバー（組合員）のくらしの応援を実現します。現在、10,832人のメンバー（組合員）にご利用頂いています。

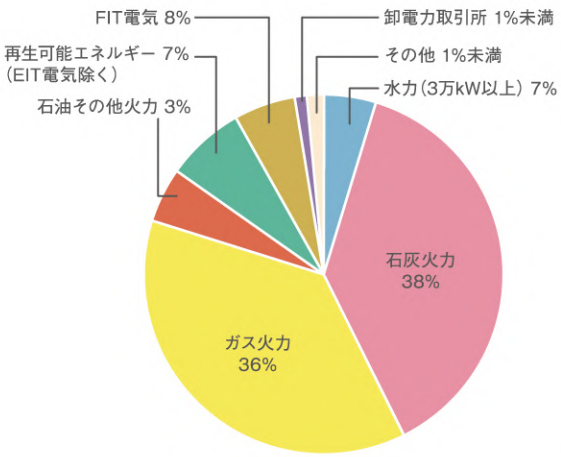


● コープのでんきCOCOENE（ココエネ）は2つのプランから選べます。

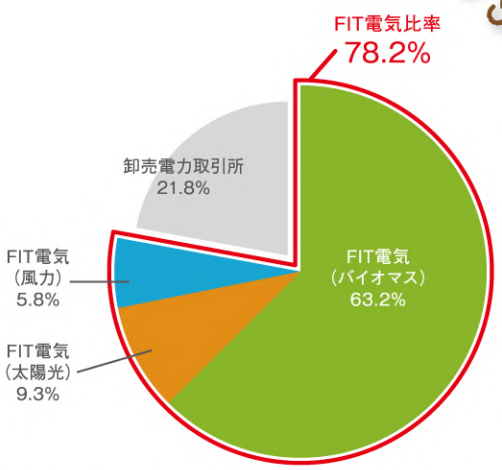
◆みらいにやさしい「ソフトでんき」　再生可能エネルギーの構成が高いみらいにやさしいでんきです。
※再生可能エネルギーにより発電した構成が高いプランです。（2018年度計画構成比80%）

◆くらしにやさしい「コスパでんき」　料金がお得なプランです。

●東北電力電源構成実績（2017年度）
（出典：東北電力HPより）



●ソフトでんき電源構成実績（2017年度）



※再生可能エネルギー比率78.2%は、すべて東北地方の再生可能エネルギーによる発電所からの供給です。

●〈ソフトでんき〉は再生可能エネルギーで発電したFIT電気を中心とした電気です。

太陽光発電設備
（でんきの地産地消）

みやぎ生協では、店舗・共同購入センター・物流施設など17ヶ所に太陽光発電設備を設置し活用しています。



秋田県
羽川風力発電所

みやぎ生協・いわて生協・コープあきたと3つの会社が出資して稼働を開始した風力発電です。



※生協がFIT電気を調達する費用の一部は、電気をご利用のすべての皆様から集めた賦課金により賄われており、
この電気のCO_2排出量については、火力発電なども含めた全国平均の電気のCO_2排出量をもった電気として扱われます。

貢献するSDGs



第5章 環境活動





かけがえのない自然・環境を未来にのこす

みやぎ生協は、メンバー（組合員）と職員の活動や事業における取り組みを通して、「低炭素社会、循環型社会、自然と共生した社会づくり」の3つの視点で、主に①CO_2の総量削減、②事業からの廃棄物の削減・再資源化、③環境に配慮した地域社会の構築、④商品事業における環境配慮商品の普及などに取り組んでいます。

環境理念

みやぎ生協・コープふくしまは、メンバー（組合員）と職員の活動や事業における取り組みを通して環境負荷の低減と自然との共生に貢献し、持続的に発展する社会づくりに寄与します。

環境方針

みやぎ生協・コープふくしまは、食料品、衣料品、日用品雑貨等の商品をメンバー（組合員）に供給していることを踏まえ、環境理念を基に環境保全活動を進め、事業者としての社会的な責任を果たします。

1. 「低炭素社会、循環型社会、自然と共生した社会づくり」の3つの視点で、重点課題として以下の4項目をメンバー（組合員）とともに取り組みます。
   1）生協事業におけるCO_2の総量削減
      省エネ機器、再生可能エネルギー、BDFなどの普及、拡大によりCO_2の総排出量での削減
   2）事業からの廃棄物の削減・再資源化
      事業及び家庭ごみの減量のための発生抑制、再利用、再生利用、熱回収などの推進
   3）環境に配慮した地域社会の構築
      市民（メンバー組合員・生活者）、市民団体、自治体、行政などと環境に配慮した地域社会構築の推進
   4）商品事業における環境配慮
      みやぎ生協・コープふくしまの産直品・地産地消商品、環境配慮商品の取り扱い強化

2. 環境に関する法規制及びみやぎ生協・コープふくしまが受け入れを決めた要求事項（協定書など）を順守します。
3. 環境汚染の予防と自ら構築した環境マネジメントシステムの継続的な改善に努めます。
4. 全職員及び業務委託先に教育・啓発を積極的に行い、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

この環境方針は、生協内外に公表します。

みやぎ生活協同組合　　理事長　宮本 弘

低炭素社会の構築に向けて

●事業におけるCO_2の総量削減

みやぎ生協は、新店や既存店改装時に高効率の冷凍・冷蔵設備や空調設備の省エネ機器を導入したり、空調温度や冷ケース温度管理の省エネ運用によって、事業におけるCO_2排出量削減に継続して取り組んでいます。また地球温暖化係数の極めて低い自然冷媒(CO_2冷媒)を使用した冷凍・冷蔵設備も導入しました。削減計画の基準年の2013年度の排出量から2018年度には37.5%(19,044トン)以上削減する目標に対して、2018年度は39.4%(19,988トン)削減しました。

ほとんどの事業所で地球クラブ(日本生協連の子会社)から再生可能エネルギー比率の高い電力を利用しています。このことでCO_2排出係数が下がり、排出抑制になりました。



●2030年にCO_2を65%削減する計画を策定

みやぎ生協は、国際的な取り組みであるパリ協定に批准した日本の目標である小売業の40%削減目標に対し「2030年のCO_2排出総量を2013年比で65%削減する」計画を策定しました。2019年度より取り組み始めます。

2030年までのCO_2排出量試算

	2013年度	2018年度	第1期 2019年度～2021年度			第2期 2022-24年度	第3期 2025-27年度	第4期 2028-30年度
各年度CO_2排出量(トン・見込み)	62,150	30,797	29,004	29,350	27,940	21,193	21,586	21,857
削減目標値(13年度比)		39%	53%	53%	55%	66%	65%	65%

再生可能エネルギーの普及拡大

●太陽光発電

店舗や共同購入センターなど17ヶ所に太陽光発電設備(自家消費と売電)を設置しています。発電能力は609.5kWで、2018年度の発電実績は621,601kWhでした。これによるCO_2削減効果は255トンでした。

●SVOコージェネレーション発電機

SVO(ストレートベジタブルオイル:廃食油)を燃料とした発電機をリサイクルセンター、本部、仙台東センターに加え、2018年度には柴田センター、仙台中央センターにも設置し計5台稼働しています。2018年度の発電実績は合計で261,429kWhでした。(発電能力は各25kW)これによるCO_2削減効果は198トンでした。

●風力発電事業

みやぎ生協、いわて生協、コープあきたの3生協と3つの会社がコープ東北グリーンエネルギー株式会社に共同出資する形で風力発電事業を2016年10月から稼働しました。秋田県の日本海沿岸に2,500KWの風車を3基建設しました。メンバーから愛称を公募し、みやぎ生協の2基は「風のめぐみ」「風のつばさ」、いわて生協の風車は「風のみらい」と名づけられました。2018年度の発電実績は3基合計で1,875万kWhで地球クラブに売電しています。一般家庭5,100世帯分に相当します。これによるCO_2削減効果は9,768トンでした。


秋田の風力発電

●発電事業への出資参加

みやぎ生協は下表の発電事業に出資参画しています。2018年度の発電実績は合計23,573万kWhで、これによるCO_2削減効果は12,282トンでした。これらの一部を地球クラブに売電しています。今後は秋田大仙(6MW)と福島田村(6MW)でも稼働予定しています。



花巻木質バイオマス発電所

みやぎ生協が参画している発電事業

名　称	発電能力	2018年度発電実績
岩手県野田木質バイオマス	14MW	10,299万kWh
青森県津軽木質バイオマス	6MW	4,512万kWh
岩手県花巻木質バイオマス	6MW	4,489万kWh
福島県富岡復興ソーラー	30MW	4,273万kWh

水素エネルギーの利活用実証事業

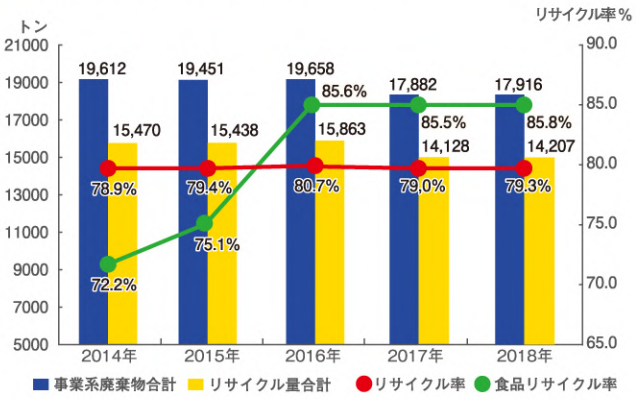
みやぎ生協は宮城県が策定したビジョンに基づき、水素社会構築を推進する富谷市で、物流センターの太陽光発電システムで発電した電力からCO_2を排出せずに水素を製造し、メンバー宅3軒、明石台店、富谷市児童館に届け、エネルギーとして利活用する環境省の実証事業に富谷市、日立、丸紅とともに取り組んでいます。2019年度も引き続き事業化に向けた実証を行います。

廃棄物の削減・再資源化

リサイクルセンターの取り組み

みやぎ生協リサイクルセンターは、事業所から出る廃棄物を自ら分別、収集、再資源化して環境負荷を低減するために、2006年から稼動しています。店舗などから回収した古紙、ダンボール、牛乳パック、発砲スチロール、卵パック、プラスチック類などをリサイクルセンターで減容・圧縮し、再資源化しています。また店舗から出る野菜、果物、惣菜、寿司、日配の食品残渣を回収し、エコフィード化(食品残渣を乳酸発酵による液状飼料化)して県内外の養豚場に出荷しています。これらの取り組みによって2018年度のリサイクル率は79.3%に、食品リサイクル率は85.8%でした。

■廃棄物量とリサイクル率、食品リサイクル率



古紙回収

古紙回収ボックスを34店舗に設置し、メンバーから新聞、チラシ、雑誌などを回収しています。古紙1kgにつき1ポイントで300ポイント溜まると、みやぎ生協の店舗で利用できる300円割引券がもらえる古紙リサイクルポイントシステムを導入しています。この取り組みは家庭ごみの削減、古紙リサイクルの循環型社会作りに貢献しています。2018年度の回収量は6,686トンでした。また、メンバー(組合員)からの要望に応え、ダンボール回収を5店舗で実施しています。

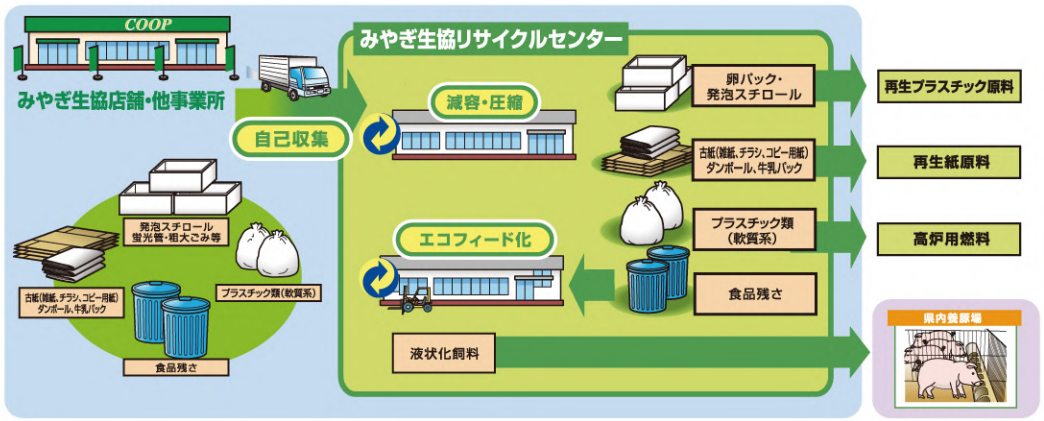


古紙回収ボックス(荒井店)

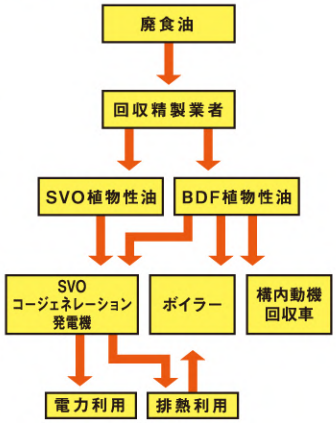
小型家電回収

仙台市の小型家電リサイクルモデル事業に協力して、2015年からみやぎ生協の仙台市内6店舗で小型家電の回収を開始しました。その後他の自治体からも協力依頼があり、2016年から古川南店で、2017年から多賀城市内3店舗と加賀野店、仙台市内4店舗と石巻市内2店舗でも回収開始しました。現在5市17店舗で回収しています。回収した金属で2020年東京オリンピック・パラリンピックのメダルが作られます。2018年度の回収量は、15,134kg、前年比157.5%でした。

■みやぎ生協リサイクルセンターの全体フロー



■SVOコージェネレーション発電機のSVO・BDF・電気・熱のフロー



●家庭用使用済み食用油（廃食油）回収

仙台市の廃食油回収事業に協力して仙台市内12店舗で回収し、その廃食油の売却代は、「緑の基金」に寄付（仙台市のみ）しています。名取西店と加賀野店でも各自治体に協力して回収しています。2018年度の回収量は23,702ℓ、前年比110.8%でした。



小型家電回収ボックス（南光台店）



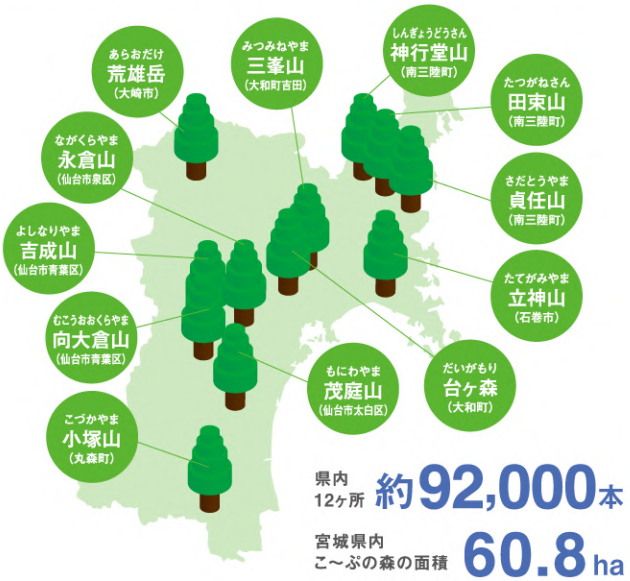
廃食油回収ボックス（南光台店）

メンバー（組合員）の環境活動

●「こ～ぷの森」の活動

宮城県内の緑と自然を豊かににするため“こ～ぷの森”の活動が1992年から始まりました。2018年度は新たに「こ～ぷの森三峯山」（大和町吉田）が誕生し、1.1haに低花粉スギ、カラマツなどの針葉樹、ブナ、ミズキなどの広葉樹、計3,000本を植林しました。現在、県内12か所に“こ～ぷ森”が広がっています。

5月12日の植林体験会にはメンバー、協賛企業、職員など52人の参加で地域の植生にあった広葉樹を植林しました。



県内12ヶ所 **約92,000本**

宮城県内こ～ぷの森の面積 **60.8ha**

●「COOP緑の基金」の活用

アルミ缶や廃食油回収の売却益、メンバーからの募金、協賛企業からのキャンペーン募金を積み立てた「COOP緑の基金」を活用して、“こ～ぷの森”への植林や下刈りなどの施業を行っています。“こ～ぷの森”の環境貢献度を表示したポスターを店舗などに掲示してお知らせしました。



「こ～ぷの森三峯山」植林体験会

●くらしの見直し・省エネ

2016・2017年度に行った「わが家の電気ガス料金しらべ」の結果をもとに、ラクミー6月号「くらしのエネルギー」特集で、電力小売りや都市ガス自由化などの制度改革やコープのでんき、LPガスの価格格差などについてお知らせしました。10月2日学習会「これからのエネルギー」で電力自由化についてお知らせしました。

環境配慮商品普及は56エリアで、つどいや夏・秋まつりなどと一緒に取り組み、エシカル消費としての環境配慮商品をお知らせしました。

●生物多様性をはぐくむ活動

7月21日「夏休み親子企画南三陸の森と水辺に行ってみよう」には25人、9月22日「秋の森に行ってみようこ～ぷの森小塚山」（丸森町）には46人、10月20日「こ～ぷの森永倉山」（仙台市泉区）には26人が参加し、生物多様性や森の役割などを体験できる場として“こ～ぷの森”を活用しました。


「こ～ぷの森永倉山」観察体験会

◆“こ～ぷの森”の活動についての詳細はこちらからご覧になれます。
https://www.miyagi.coop/member/kankyou/coop-woods/01.html

商品事業における環境配慮

環境配慮商品の普及拡大

みやぎ生協は、「顔とくらしの見える産直めぐみ野」商品、地産地消商品、環境配慮商品の普及拡大に取り組んでいます。そのことで低炭素社会、循環型社会、自然との共生（生物多様性）を目指しています。

環境配慮商品ラベル

エコマーク

生産から廃棄を通して環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品です。

MELジャパン
（マリン・エコラベル・ジャパン）

水産資源と海にやさしい漁業を応援する認証制度です。

MSC
(Marin Stewardship Council：海洋管理協議会)

海の資源を枯渇させないよう、漁獲量や漁法・漁の時期・生態系などに配慮した漁業でとられた水産製品です。

ASC
(Aquaculture Stewardship Council：水産養殖管理協議会)

環境と社会に配慮した責任ある養殖場で育てられた水産物です。

FSC
(Forest Stewardship Council®：森林管理協議会)

責任ある森林管理をしている林業者を支援し、世界の森林保全貢献につながる木材製品です。

有機JAS

一定の基準で農薬や化学肥料を使用しないで作られた農産物とその製品です。

特別栽培農産物

生産された地域の慣行栽培と比べて農薬の使用回数50%以下、化学肥料の窒素量を50%以下で作られた農産物とその製品です。

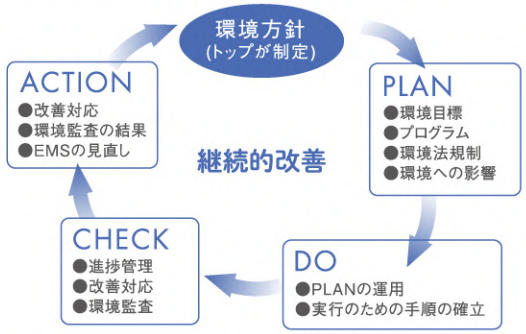
レインフォレスト・アライアンス認証

レインフォレスト・アライアンス認証は、環境保護、労働者や家族の生活向上など持続可能な農業のための包括的な基準を満たした農園に与えられる認証です。

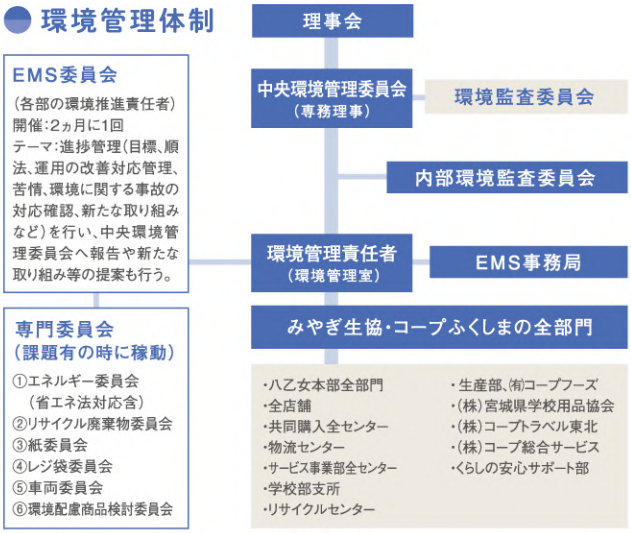
環境マネジメント

PDCAサイクル

みやぎ生協は2013年度にISO14001を返上しましたが、「環境マネジメントシステム（EMS）」の継続は組織にとって有益と考え、継続運用しています。



環境管理体制



環境会計

(1)環境保全の投資コスト額：5億7,036万円（前年度3億4,204万円）
BRANCH（ブランチ）仙台店と3つの既存事業所にCO_2冷媒を使用した最新型の冷凍・冷蔵設備を導入しました。9事業所の空調設備を最新の設備に更新しました。15店舗駐車場の水銀灯をLED照明に変更しました。共同購入仙台中央センターにSVOコージェネレーション発電機を導入しました。

(2)環境保全の費用額：4億9,349万円（前年度5億5,332万円）
①公害防止コスト（店舗のドレン清掃費など）や店舗で値引きを行うことで廃棄を削減できた経費効果が減少しました。②一般廃棄物の処理費用は増えました。

(3)環境保全対策に伴う経済効果：2億5,460万円（前年度3億938万円）
①リサイクル品の売却収入が増えました。②省エネ機器等の導入による省エネ効果が前年より減りました。③事業所のコピーカウンター費用の削減効果が前年より減りました。

(4)環境関連の寄付と募金合計：1,236万円（前年度1,326万円）

環境に関する法規制とご意見

(1)環境に関する法規制29項目とその他の基準や協定など8項目あり、すべて適切に管理しました。

(2)環境に関するお申し出は1件、ご意見は18件でした。

主なご意見項目	件数
①リサイクルについて	8件
②再生可能エネルギーについて	3件
③環境設備について	3件
④店内環境について	2件
⑤容器包装について	2件

2019年4月13日

環境監査結果報告

外部環境監査

みやぎ生活協同組合
理事長　宮本　弘 様

環境監査委員会
委員長　遠藤　智栄
委　員　大村　泉　高橋　春男
佐々木　英美　佐藤　博子
中田　俊彦　松木　弥恵

当委員会は、みやぎ生協環境管理規定第14条、同環境監査規定第6条および第7条の規定に基づき、みやぎ生協の環境管理および環境保全活動について、以下の通り環境監査を実施したので報告する。

【環境監査の実施日】
第1回　2018年11月9日（金）2018年度上期：書類監査、TKLC水素製造設備視察
第2回　2019年 4月13日（土）2018年度：書類監査および総合監査

【評価事項】
1.再エネ発電事業者に投資し、協力連携することなどによりCO_2総排出量を削減したこと。また2030年に向けた温室効果ガス削減計画を策定したこと。
2.事業活動に伴う廃棄物の削減、再資源化を継続して実施し、環境会計の観点からこれらの取り組みの価値を定量化していること。
3.グリーン電力（再生可能エネルギー）の導入や調達などを通じて、地域社会において環境行動の先進的な取り組みを実践していること。
4.めぐみ野品に関してメンバーと生産者間の学習と交流を積極的に行い、商品の普及と品質向上を実現するとともに商品の供給増につなげたこと。また生産部において加工工程で出る端材を活用した新商品を開発したこと。
5.多様な環境データの分析結果を、円グラフや表、原単位を用いて可視化し、わかりやすくまとめたこと。

【指摘事項】
1.CO_2削減効果を、調達先の電気事業者の電源構成変化と自らの環境活動の効果に分けて整理すること。
2.店舗の廃棄ロスや値引きなどについて、環境会計の観点から客観的指標を作成し使用することにより分析評価すること。
3.コピー紙の使用が大量であることの原因を分析すること。さらにIT化や電子化を推進することにより、コピー紙の使用量の削減に努めること。
4.SDGs（持続可能な開発目標）に掲げられている17の目標をふまえて、環境活動を実践し表現すること。
5.高効率のガス器具や断熱サッシなどの環境配慮商品をさらに普及し、東北特有の生活環境の向上をめざした支援活動を継続すること。

以上

内部環境監査

○実施期間 ： 2018年7月13日（金）～2018年8月31日(金)
○監 査 員 ： 主任監査員1人、監査員20人。
○監査所見 ： 総数16件:内訳は要改善事項10件、＋評価事項6件

総合所見	（1）みやぎ生協の環境マネジメントシステムが適切に運用されている事を確認しました。引き続き実態に即したシステムの整備・運用を行なってください。 （2）環境目的・目標の進捗と運用管理の状況 ①環境目標は、環境管理計画及び進捗管理表等により実施状況が管理されており、有効に運用されていることを確認しました。 ②業務課題を環境目標として設定し取り組んでおり、ISO認証返上後も継続して組織の中に環境マネジメントシステムが維持されています。 （3）運用管理と順法事項の状況 2事業所については、担当者の引き継ぎ、教育が不十分だったので、基本的なことができていませんでした。マネジメントシステムが崩れかねないので、引き継ぎ時の教育は所属長、運営本部、事務局が責任をもって実施することを求めます。 （4）重点監査事項 ①「教育記録簿の作成なし（システム部）」という要改善が1件ありました。環境教育は全事業所でおおむね取り組まれています。 ②「産業廃棄物保管場所表示板に書かれている種類が少なく不十分で、実際に置いてある物と一致していない（榴岡店）」という要改善が1件ありました。今年はやっと表示板が掲示されていないという要改善は0件になりました。しかし表示内容の理解不足で上記の要改善が発生しました。引き続き環境法順守の内容を正確に教育する必要があります。

◆環境に関する取り組みの詳細は下記のURLからご覧ください。https://www.miyagi.coop/member/kankyou/

みやぎ生協の環境活動

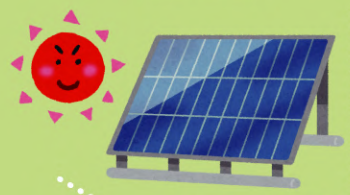
再生可能エネルギーの普及



風力発電



木質バイオマス発電



太陽光発電



省エネ設備（冷凍冷蔵設備・空調・LED照明など）

BDF車両 注①



CO_2削減



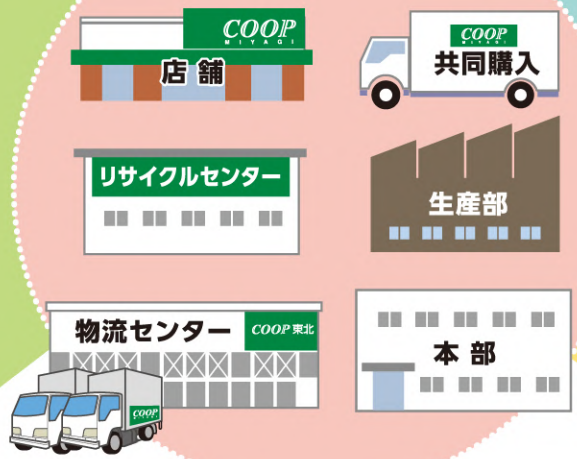
SVO 注③ コージェネレーション発電機



電気自動車



通い箱リライトラベル 注②





共同購入チラシ・紙パック回収

環境に配慮した地域社会づくり

めぐみ野産地交流・体験会



生物多様性保全の活動



こ〜ぷの森づくり



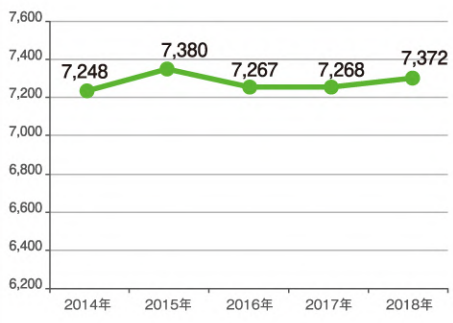
省エネ・くら



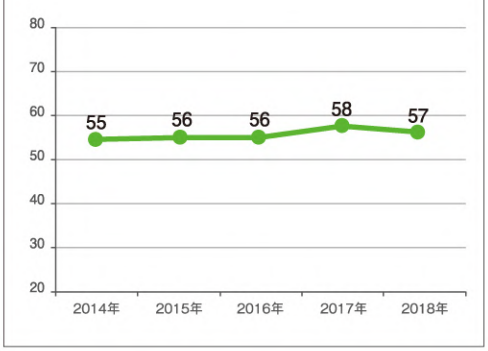
省エネクッキング

注①:BDF（バイオディーゼルフューエル）:植物由来の廃食油を化学処理して作られる軽油代替燃料のこと。
注②:通い箱リライトラベル:共同購入の通い箱のラベルを剥がさずに繰り返し印字できるシステム。

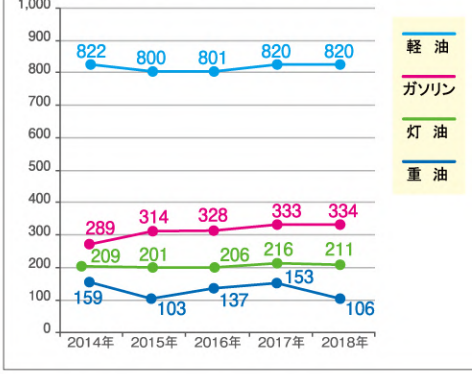
電気使用量（単位:万kWh）



LPG使用量（単位:万m^3）



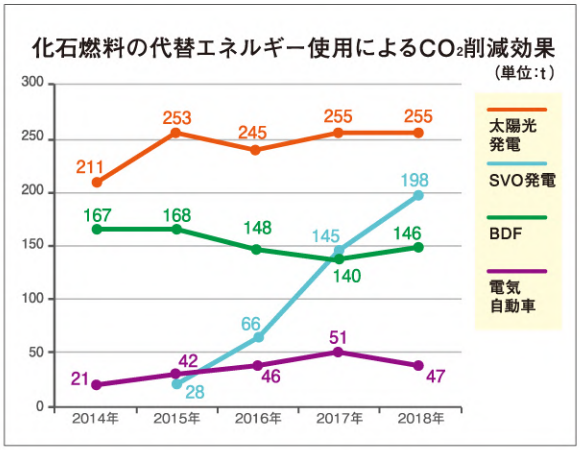
軽油・ガソリン・灯油・重油使用量（単位:kl）

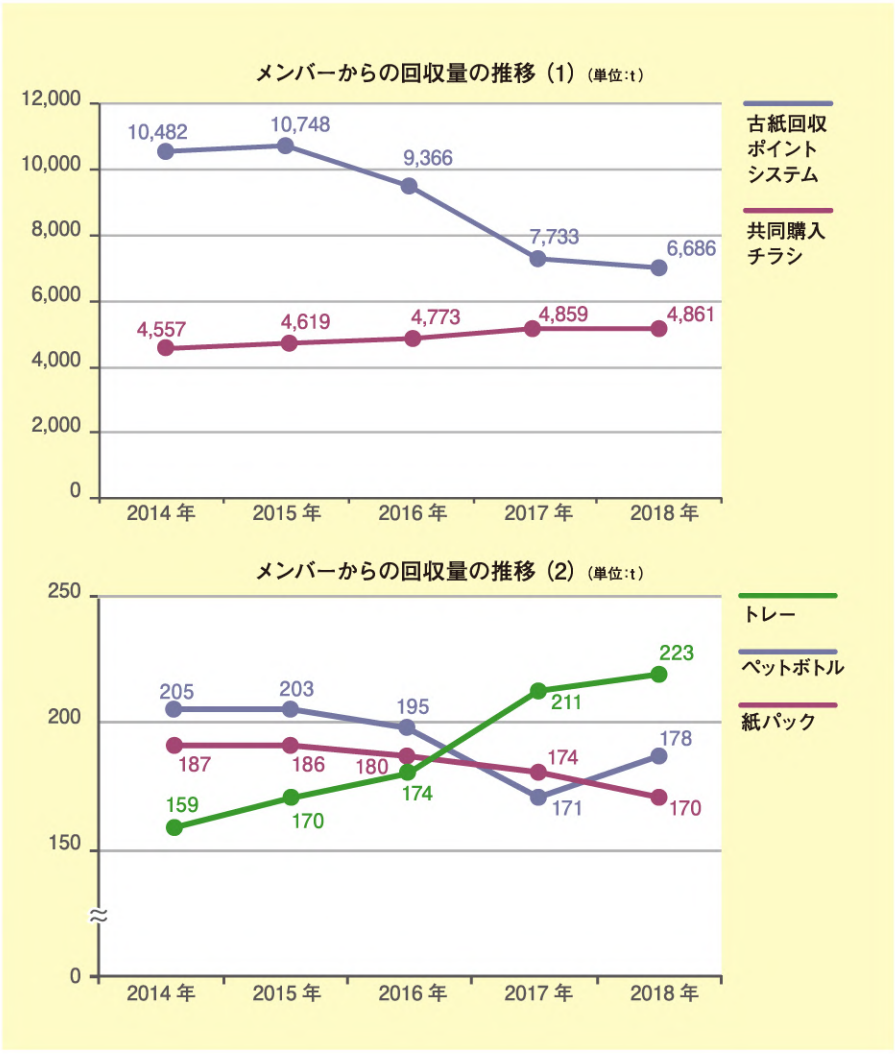


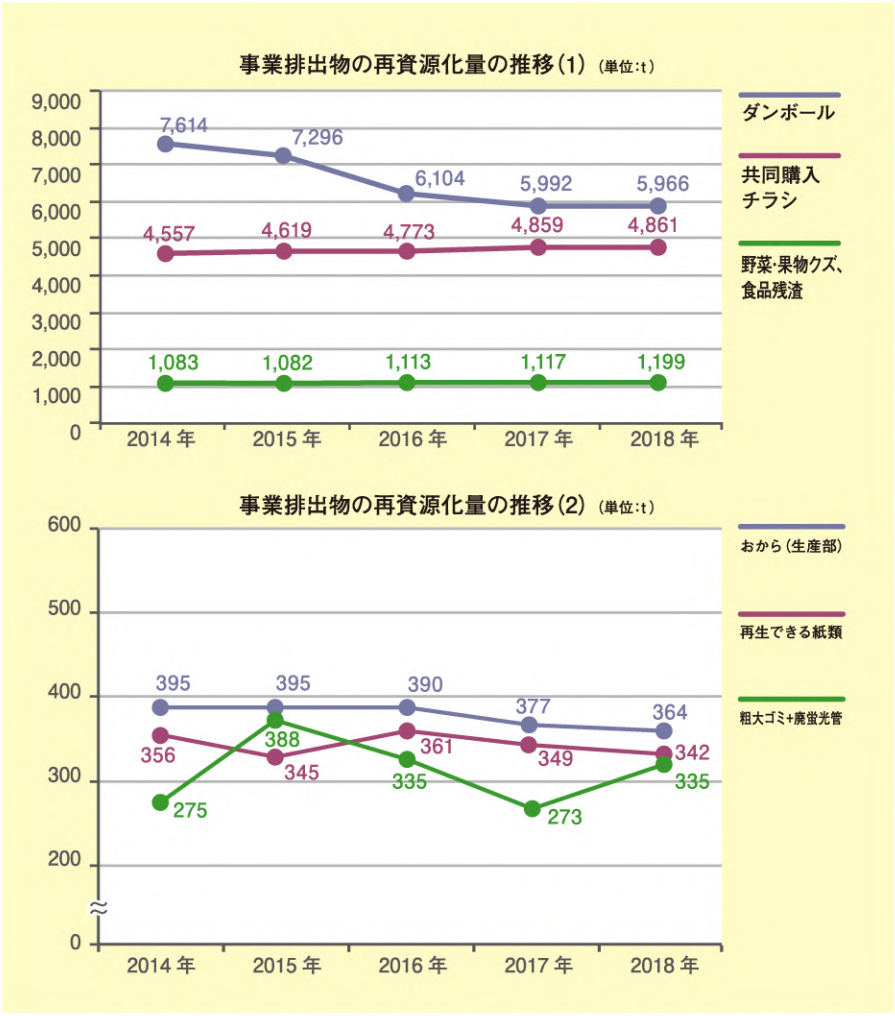




注③:SVO(ストレートベジタブルオイル):植物由来の廃食油を物理的に処理して作られる軽油代替燃料のこと。
SVOコージェネレーション発電機:SVOを燃料にして電気と熱エネルギーを活用する設備。









© みやぎ生協

こやぎの
みやぎちゃん

みやぎ生活協同組合

Sustainability Report 2019

サステナビリティレポート2019

発行日：2019年5月18日
発　行：みやぎ生活協同組合
〒981-3194　宮城県仙台市泉区八乙女4-2-2

お問い合わせ先
○機関運営部広報課 …… TEL.022-771-1590　FAX.022-773-1821
○環境活動に関する詳細は環境管理室 …… TEL.022-771-2461

HPアドレス　みやぎ生活協同組合　https://www.miyagi.coop/
本報告書はホームページに掲載、ダウンロードできます。